



SINCE 1989

札幌国際親善の集い 創立30周年記念誌

目次

会長挨拶〈谷口 エツ〉	2
祝辞	
・北海道知事〈高橋 はるみ〉	3
・札幌市長〈秋元 克広〉	3
・駐札幌大韓民国総領事館 総領事〈朴 賢圭〉	4
・在札幌ロシア連邦総領事館 総領事〈A. ファブリーチニコフ〉	4
・中華人民共和国駐札幌総領事館 総領事〈孙总 照片〉	5
・北海道大学国際連携機構副機構長〈川野辺 創〉	6
・北海道新聞社取締役総務局長〈本庄 明彦〉	6
海外文化交流	7
創立30周年を迎えて	8
留学生	12
30周年記念座談会	13
札幌国際親善の集い年譜	30
思い出の30年	37
あとがき	51



札幌国際親善の集い 創立 30 周年に寄せて

会 長 谷 口 エ ツ

平成元年に国際的に活躍しているロータリアンの主人谷口良一が、国際都市札幌と言われて
いる此の札幌市に、民間として初めて「札幌国際親善の集い」を団体として設立し今年で 30 年
目を迎えた。市内はもとより世界の札幌姉妹都市 5 カ国を訪問し、日本舞踊、茶道等の日本文
化を 20 名の会員でステージ発表し大歓迎を受けた。世界の 20 カ所で公演する機会に恵まれ、
別表の通りである。国内では毎年 5 月には「チャリティー翔！ぬくもりワールド」として「か
でる 27」で行われ、「北大留学生センター」「北海道新聞野生生物基金」に 20 年以上定期的に寄
付を続けさせて頂き、大変喜ばれている。600 名の観客のチケット代の一部が贈呈されている。

毎年 10 月の「ふれ愛・チャリティーフェスティバル」は留学生招待のディナーパーティー
で札幌パークホテルで行われ、此の集い年間の最大行事である。各テーブルに留学生 2 人ずつ
招待し、事前に理事で試食しているディナーは大変な人気で喜ばれている。

ステージでは正面と本舞台（サイドステージ）で交互に出演され、人気のステージである最
後には例年通り二重の輪になり、留学生や来賓も会員と一緒に全員が北海盆踊りを楽しみ
フィナーレとなる。留学生も来賓も心ひとつに楽しい踊りの輪は国際平和の華が咲いた様な感
動的な場面である。

札幌国際親善の集いに関し数々の感謝状の中には会長個人のも含まれているが関連性があり
別表に載せさせて戴いた。



札幌国際親善の集い設立 30周年記念誌に寄せて

北海道知事
高橋 はるみ

「札幌国際親善の集い」が設立30周年を迎えられましたことを、心よりお祝い申し上げます。谷口会長をはじめ、関係の皆さまにおかれましては、30年の長きにわたり、日本舞踊などの日本の伝統文化を通じた留学生との交流や、「ふれ愛・チャリティーフェスティバル」をはじめとする取組により、海外の皆さまとの交流や相互理解の促進にご尽力をいただき、本道の国際化に多大なるお力添えを賜りましたことに、厚くお礼申し上げます。

この間、北海道洞爺湖サミットをはじめ、様々な国際会議が道内で開催されるようになり、海外からの観光客は増加し、食をはじめとする北海道ブランドが高まるなど、世界における本道の存在感は年々高まってまいりました。今年10月には倶知安町で「G20観光大臣会合」が開催され、北海道の魅力を国内外に一層アピールできる絶好の機会を迎えます。こうした中、これまで皆様が築いてこられた友情と信頼の確かな礎は、これからも未来に向かって大きな役割を果たしていくことと思います。道では今後とも、多文化共生に向けた相互理解の推進や、海外との人材交流の推進などに積極的に取り組んでまいりますので、皆さまにおかれましても、引き続き、北海道と海外を結ぶ架け橋として、それぞれのお立場から末永くお力添えいただければ幸いです。

結びに、皆さまの今後ますますのご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げ、挨拶といたします。



「札幌国際親善の集い」 設立30周年に寄せて

札幌市長
秋元 克広

「札幌国際親善の集い」が、設立から30周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

「札幌国際親善の集い」の皆様におかれましては、設立当時からチャリティーイベントを開催され、日本舞踊や茶道といった日本の伝統文化の交流を通じた国際交流に尽力されてこられました。また、留学生を対象とした日本舞踊教室を開催されるなど、本市の国際交流の推進に大きく貢献いただいておりますことに心より感謝申し上げます。

それと同時に「札幌国際親善の集い」が、今年度で活動を終わられるということをお聞きしました。「札幌国際親善の集い」の皆様には、札幌市と姉妹都市との姉妹都市提携周年事業にご協力をいただいたこともあり、活動終了の知らせは誠に残念であるとともに、長きにわたる活動に対し、労いの言葉を申し上げます。

札幌市は2019年にアメリカ・ポートランド市と姉妹都市提携60周年を迎え、2020年には、中国・瀋陽市と40周年、ロシア・ノボシビルスク市と30周年、韓国・大田広域市と10周年を迎えます。これらの周年事業に向けては、市民や関係団体の皆様と一体となって盛り上げていきたいと準備を進めているところです。

また、2019年はアジアで初めての開催となるラグビーワールドカップや、2020年には東京オリンピック・パラリンピックのサッカー競技が札幌市でも開催されます。大会期間中には、札幌市にも海外から多くのお客様がお越しになるなど、これまで以上に国際交流の重要性が増してまいります。

これまで長きにわたり「札幌国際親善の集い」の皆様が草の根の国際交流により築き上げてこられた絆や培われた経験をこれからは私どもがしっかりと受け継ぎ、これらの活動に生かしてまいります。今後につきましても札幌市と海外との交流の輪がさらに広がりますようご理解とご協力をお願い申し上げます。

30年間の「札幌国際親善の集い」の皆様のご活動に敬意を表しますとともに、皆様のご健勝とご活躍を祈念申し上げ挨拶とさせていただきます。

祝 辞



札幌国際親善の集い 設立30周年記念誌お祝 いの辞

駐札幌大韓民国総領事館総領事
朴 賢圭

「札幌国際親善の集い」設立30周年を心よりお祝い申し上げます。

1989年に創立されて以来30年に渡り、北海道と札幌の国際化と他国との友好親善のためご尽力されている「札幌国際親善の集い」に尊敬と敬意の意を表します。

国際親善の集いは「チャリティー翔！ぬくもりワールド」と「チャリティーふれ愛・フェスティバル」として代表される有意義なイベントを積極的に開きながら、ここ札幌に定着した外国人留学生を暖かく迎える事で現地によく馴染ませ、そして地域の国際化にも大きく寄与していると存じております。

最近、北海道が魅力溢れる観光地として全世界から注目を浴びている中、来道韓国人観光客も急増しています。これを証明するかのようになり、各航空会社では韓国と北海道を結ぶ航空便を増便させたり、チャーター便を運航したりしており、2018年一年間北海道を訪れた韓国人は約100万名に達しました。このような北海道人気背景には、「札幌国際親善の集い」のような民間団体の絶えぬ努力があったからこそだと思ひ、皆様のこのような草の根レベルでの交流活動は国同士の友好増進のためにもとても丈夫な踏み台になると思っております。

設立30周年記念誌発刊にあたり札幌国際親善の集いが活動を休止されることは非常に残念に思っております。韓国総領事館では韓国の文化を紹介する行事など様々なルートを通じ、北海道民の皆様がより韓国を近く感じるように活動を広げて参りたいと思ひますので、皆様の変らぬご協力とご声援をお願い申し上げます。

結びに、谷口エツ会長をはじめ会員の皆様のご今後のご健勝とご発展を心よりお祈り申し上げます。

誠にありがとうございます。



尊敬する友人の皆様

在札幌ロシア連邦総領事
A. ファブリーチニコフ

在札幌ロシア連邦総領事館のファブリーチニコフと申します。

この度、「札幌国際親善の集い」設立30周年を迎えられましたことと心よりお祝い申し上げます。皆様におかれましては、積極的な活動を通じ、日ロ関係の質実な発展に不可欠である両国民間の信頼と相互理解を深めるために多大な貢献をされてきましたことに、心から敬意を表します。

近頃、北海道を含め、日本とロシアの間の政治対話、経済協力は活発的に広がっていますが、文化、教育などの分野における草の根交流活動も非常に大事だと確信しております。このような活動を通じて真の相互理解、世界平和が作られると思っております。そのため、「札幌国際親善の集い」の皆様によるロシアを含め、外国の方々との人的交流、北海道へ来る留学生への支援などの活動を非常に高く評価しております。

ロシア連邦のプーチン大統領と日本の安倍総理大臣により、2018年は「ロシアにおける日本年」および「日本におけるロシア年」として発表され、2019年6月まで続きます。この交流年を通じて、文化の分野における日ロ間関係が更に発展していくことと確信しております。また、日ロ間の「草の根」交流を促進していただきました「札幌国際親善の集い」を含め、たくさんの民間団体による活動の結果でもあると言えます。ロシア総領事館としても微力ながら貢献いたしましたことを誠に嬉しく思っております。

おしまいに、谷口会長をはじめとする皆様のご健勝、ご活躍を祈念いたします。将来的にまた別の形で協力が続けられることを期待しております。この素敵な30年、誠にありがとうございました。



祝 辞

中華人民共和国駐札幌総領事
孫 振勇

札幌国際親善の集い設立30周年にあたりまして、中華人民共和国駐札幌総領事館を代表し、心よりお祝いを申し上げます。

札幌国際親善の集いは1989年設立以来、30年間にわたり平和・友好の理念を貫き、留学生との交流を始めとして様々なイベントを通じて中日両国ひいては世界各国との友好交流を促進し、グローバルな相互理解に大きな貢献をしてきました。皆様のご尽力に尊敬と感謝の意を表します。

中国と日本は一衣帯水の隣国であり、両国の間には二千年以上にわたる友好交流の歴史があります。中日関係の健全且つ安定的な発展は、両国と両国民の根本的な利益に合致し、地域と世界の平和・安定・繁栄に有利であり、双方は平和友好協力の方向をしっかりと把握し、善隣友好協力を発展させなければなりません。昨年は中日平和友好条約締結40周年であり、中国と日本は国家首脳の面会と総理の相互訪問を実現し、中日友好交流事業の船を再出航させ、記念すべき新しいスタートを切りました。2019年に入り、中日友好関係の発展は新たなチャンスを迎え、より緊密・調和な段階に上がると信じております。札幌国際親善の集いの皆様も30年間のご貢献に基づき、引き続き民間交流における両国の友好事業を推進し、中日友好関係の更なる発展に貢献するよう期待しています。

結びに、札幌親善の集いの皆様のこれまで30年間のご尽力に感謝を申し上げ、皆様のこれからの益々のご活躍とご健勝を心から祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。



祝 辞



30周年記念誌に寄せて

北海道大学国際連携機構副機構長
川野辺 創

「札幌国際親善の集い」の設立30周年を心よりお祝い申し上げます。谷口エツ会長をはじめとする会員の皆様のおかげで長年に亘る札幌在住の外国人との交流を中心とした各種のご活動と、本学留学生への心温まるご支援に、改めて深く感謝申し上げます。

中でも、国際親善を目的としたハイキングをはじめとする野外活動や、日本舞踊の教室などで、本学の多数の留学生が大変お世話になりました。

また、毎年春と秋に開催されるチャリティイベントには、私も何回か参加させていただき楽しませていただきましたが、日舞教室でお世話になっている多くの留学生が、緊張しながらも楽しそうに踊っていた姿が印象に残っています。これらのイベントは、留学生にとって、普段の練習の成果を披露できる貴重な場であり、後々まで思い出に残る、またとない機会になったようです。そればかりか、これらのイベントの収益の中から、本学の留学生のために継続的に寄付をしてくださったことは、感謝に堪えません。

30年前には300人に満たなかった本学の留学生も、今では2000人を超えるまでになりました。留学生の中には、折角日本に滞在しているながら、地域の方々と親密にふれ合う機会をほとんど持たないまま帰国する者も少なくありません。そんな中、「札幌国際親善の集い」の皆様が、日舞などを通じて皆様と親しくふれ合う機会を提供してくださったおかげで、札幌を好きになって母国に帰る留学生が多かったことも、本学の留学生の大幅な増加につながっているのではないかと考えております。

このように、地域の方々と留学生等とのふれ合いの機会を継続的に提供してくださってきた「札幌国際親善の集い」が30周年を期にその活動を閉じられると伺い、大変残念であり、寂しく存じますが、本学としても、皆様のお志を引き継ぎ、留学生と地域の方々がふれ合う場をこれまで以上に提供し、皆様が目指して来られた国際親善を通じた世界平和の推進に一層貢献できるよう、心して参りたいと存じます。

最後になりますが、30年もの長きに亘るご活動に改めて心からの敬意を表し、結びとさせていただきます。



30周年に寄せて

公益財団法人北海道新聞野生生物基金常務理事
北海道新聞社取締役総務局長

本庄 明彦

「札幌国際親善の集い」の皆様、1989年の設立から30周年を迎えられたことを祝福させていただくとともに、この度、貴会の歩みに区切りをつけられることに、これまでの長年のご尽力、ご活躍に心から敬意と感謝を申し上げます。

当基金は1992年の設立から、かけがえのない北海道の自然と野生生物という財産を次の世代へ引き継いでいくために活動しております。ご縁あって貴会からは2008年より毎年、多額のご寄付を賜りました。あらためてお礼申し上げます。お陰さまで、当基金は微力ながらさまざまな活動を展開することができました。

さて、私は春の「チャリティー翔！ぬくもりワールド」と秋の「ふれ愛・チャリティーフェスティバル」の双方に出席させていただきました。ご盛況ぶりに目を見張られるとともに、料理も本当においしくいただきました。何よりも参加した世界各国からの留学生たちの笑顔が印象深く心に残りました。札幌の各団体などによる心づくしの日本舞踊や民謡などの披露に対し、留学生たちの歌や踊りも大変ほほえましく、楽しい記憶として刻まれています。こうした札幌市民と留学生たちの交流の場を長年、民間の立場から提供を続けられた貴会のご功績は極めて大きいと考えます。

海外から札幌市や北海道を訪れる観光客は年々増加し、国際化・海外との交流が一段と迫られています。こうした中で、貴会が本年度限りで活動に終止符を打たれると聞き、誠に残念に思いますが、貴会の皆様が掲げた国際親善の理想と精神は必ずや札幌市民ら関係者に受け継がれていくものと信じてやみません。とりわけ交流した留学生たちの心には、その情熱や思いが伝わっているに違いありません。

貴会の皆様が築いた草の根の交流は今後の国際的な友好につながるものと祈念しまして、30周年に寄せる言葉とさせていただきます。ありがとうございました。そしてお疲れ様でした。

世界25ヶ所で文化交流

谷口エツ同行出演

- ①昭和62年 マニラ（フィリピン）日比文化交流 コンチネンタルホテルにて
- ②昭和63年 フィラデルフィア（米国）世界ロータリークラブ大会にて
- ③平成2年 ノボシビルクス（ロシア）札幌市一姉妹提携記念
- ④平成4年 北京（釣魚迎賓館にて）、西安（2会場） 中国2ヵ所
- ⑤平成5年 ヤクーツク（ロシア）2ヵ所 劇場公演
- ⑥平成6年 ポートランド 札幌市一姉妹提携公演
- ⑦平成8年 キルギス共和国 イシクル市 世界子供フェスティバルに招待され公演
- ⑧平成9年 ミュンヘン（ドイツ）札幌市一姉妹提携公演
- ⑨平成10年 ハルビン（中国）、大慶（中国）両国文化交流公演
- ⑩平成10年 サハリン（ロシア）、コルサコフ（ロシア）2ヵ所
[札幌国際親善集い10周年記念 札幌パークにて]
- ⑪平成11年 ・ブラジル日本人移民80周年・パラグアイ日本人移民60周年
各交流会館柿落とし 「藤娘」発表2ヵ所
- ⑫平成14年6月 キルギス共和国（ロシア）両国文化交流2ヵ所公演
- ⑬平成14年9月 ・ビシケク首都 ・イシクル市 2ヵ所
- ⑭平成17年11月 日中国交30周年記念に日本女性530名の代表として北京人民会堂にて、
祝舞「鶴亀」を舞う
札幌市瀋陽市姉妹提携25周年記念に瀋陽市に文化交流団として参加日舞を舞う
瀋陽市、北京市各市大学・記念式典会場等（5ヵ所）文化交流を行う
- ⑮平成21年8月 インドネシア文化交流 ガジヤマダ大学他2ヵ所訪問・公演
- ⑯平成25年10月 韓国文化交流 ソウル・テジョン訪問・公演

祝 30年間に戴いた主な感謝状

- ①平成24年度 北海道文化団体協議会文化功労賞
- ②平成25年5月19日 北海道大学国際本部長 上田一郎
- ③平成25年度 北海道社会貢献賞 国際協力功労者 贈北海道
- ④平成25年9月5日 北海道新聞社会福祉振興基金 理事長 村田正敏
- ⑤平成26年11月3日 東久邇の宮 文化褒賞 名誉総裁東久邇盛厚
- ⑦平成30年5月13日 北海道新聞野生生物基金 理事長 広瀬兼三
- ⑧平成30年5月13日 北海道大学国際連携機構長 笠原正典
- ⑨平成30年10月9日 国立大学法人北海道大学 総長 名和豊春

創立30周年を迎えて

創立30周年に寄せて



理事長 大西 勲

私が札幌国際親善の集いの会員となったのは何時なのかについては、実は定かではありません。ただ私は、昭和62年の谷口会長の時に札幌北ロータリークラブに入会しており、平成元年の札幌国際親善の集いが創立されてからそんなに経過しないうちに入会のお誘いを受け入会したと記憶しております。ただ単なる一会員として諸行事に参加させていただいておりました。その後理事として参加させていただくこととなりましたが、会計、決算などの担当で平穩無事に過ぎておりました。しかしその後私にとりまして青天の霹靂ともいえる事態が起きました。理事長の坂東先生が脳卒中で倒れられ、そのあとを受け理事長をせよとのことでした。もとよりその器ではないのですが、逃れられず今日に至りました。

その間多くの会員の皆様の協力により、チャリティー翔！ぬくもりワールド、ふれ愛チャリティーフェスティバル、留学生との交流、毎年の総会等今となっては楽しい思い出となりました。

なかでも私にとっての一番の思い出は、韓国太田市での国際交流とソウルの韓国外国語大学校での交流等の韓国訪問かと思えます。

この30年をもって札幌国際親善の集いは終了することとなりましたが、理事、会員の皆様のご協力により満30年を迎えることができましたことを心より感謝申し上げます。



第22回2018.チャリティー翔！ぬくもりワールド

副会長 野上光子

平成30年5月13日（日）例年同じ会場「かでる2・7」大ホールで開催されました。

毎年この会を楽しみにして下さるお客様が、早い時間からホールで語り合いながら入場を待って下さいました。

演目は日本舞踊が多いのですが、留学生を対象とした日舞、カルチャー教室の生徒による発表、留学生それぞれの国の芸能出演もあり、国際色豊かで多彩な顔ぶれでした。

会員の出演は日舞、フラダンス、民謡舞踊など近年お稽古されている公演内容でした。

この様な国際色豊かな会を発足させた、故初代谷口良一会長は、国際都市札幌が世界の平和を願い市民として民間での国際親善を通し、思いやり、温かい心の通じ合う草の根の国際交流を願って立ち上げました。

現在、谷口エツ会長が引き継ぎ、札幌駐在の総領事と親交を保ち、総領事の人事が入れ替わってもご

挨拶に伺い、総領事館の催しには出席し交流、親交を深めて参りました。

札幌国際親善の集いに多大なご支援を戴きました各関係機関の皆様、市民、会員の皆様に心より深く感謝とお礼を申し上げます。

これからもお役に立つことが出来ましたら幸いです。ごぞいます。

皆様の益々のご発展とご健勝をお祈り申し上げます。



私にとっての国際親善の集いの会とそして

第30回ふれ愛チャリティーフェスティバルを終えて

副会長 八百坂 康子

ながきに亘っておつきあいでいただいた本会も、いよいよ今年度をもって終了することになりました。多くの皆様のお力添えをいただいて30年間、民間国際交流のパイオニアとして活動してきましたことを、私の一生の宝物としていついまでも心に残ることとおもいます。

私は本会の最初の会員として初めから今日まで30年間、切れることなく奉仕できましたこと、今回終了するに当たって最後のふれ愛フェスティバルの実行委員長としてお役目を丁戴いたしましたこと誠に光栄と存じております。”有終の美を飾る”という名言がありますが、精一ぱいつとめさせていただきました。皆様ご満足いただけましたでしょうか。いずれにしても、谷口エツ会長のあの粘り強さと深いおもしろい、そして国際人としての真摯な態度が札幌国際親善の集いの永年に亘る信頼を得、親しまれたものとおもいます。

札幌においての各国総領事さまをはじめ、留学生や札幌在住の外国人の方々ののお力添えと優しさそして人なつっこさが私達に力を貸していただいた賜物と深く心より感謝申し上げます次第です。

これからも、ここでつちかった草の根の国際交流を更に発展させ、世界平和と親善に大いに役立て、活動することを誓って、御礼とご報告とさせていただきます。

健康に留意して、又、世界のどこかでお会いするのを楽しみにしています！



札幌国際親善の集い30周年によせて

副理事長 斉藤昌一

節目ごとに出されておりました国際親善の集いの記念誌がついに30周年を迎えることとなり、これまでの事を振り返ってみますと長い年月が経っているにもかかわらず1つ1つの事柄が走馬灯のように頭を駆け巡ります。

故谷口会長が「世界の平和と親善を目指して民間

でしか出来ない草の根交流を願い発足」されました
当会の一員として、微力ながら携わってこれました
事を心より有難く思います。

私が参加した初めての行事が滝野すずらん公園でのハイキングでした。まだヨチヨチ歩きの息子連れでの参加でしたが、その子供がすっかり大人になり、国際親善の歩みと共に成長が重なり感慨深いものがあります。このハイキングに始まり、夏の盆踊り、仮装大会、一年の最大のイベントである「ふれ愛フェスティバル」など様々な行事がありました。その度、多くの出会いに恵まれ、学ばせていただきました。また広い視野に立って物事をみつめる機会を与えていただきました事や会を通して結ばれたさまざまなご縁に心から感謝するばかりです。

私は仕事柄、海外での国際文化交流関連の旅行に何度か同行させていただきました。

1990年に旧ソ連時代のノボシビルクスを会の皆さま25名と訪問致しましたが、当時一番若い私よりも皆さまの方が体力・エネルギー・バイタリティに満ちあふれていたのを今でも鮮明に覚えております。その後、ノボシビルクス、モスクワ、サハリン、キルギス共和国やインドネシアのジョグジャカルタなど日本とは全く異なる習慣、風土の国へ赴き交流を温めてきました。また、創立25周年の2013年には会の宿願でありました札幌と国際姉妹都市である韓国の特ジョン市を訪れることが叶いました。ソウル市も訪れ公演後に学生の皆様と交流したことも良い思い出です。こうした実現にむけて多くの方々のご尽力には言葉で表せない感謝の思いでいっぱいです。

これからも私はさまざまな国を訪れる機会があると思いますが、国際親善の集いの信念である「友情と人間愛」を胸に刻み、人と人との絆を大切にしつつ微力ながら草の根交流を続けていけたらと願っております。



30周年記念誌に寄せて

理事 新家 比佐子

創立30周年おめでとうございます

30年前は皆様若くて希望に燃えていた事でしょう。それから30年といえ

ば皆様も年を重ね理事のメンバーも高齢になり、この大きな会を支える事が難しくなってきました。

私が国際親善の集いを知ったのは平成8年10月札幌パークホテルで行われた「第8回チャリティーふれ愛フェスティバル」にかっぼれで出演、翌平成9年その頃は「チャリティーぬくもり舞人」に氷雪の門でやはりかっぼれで出演、その後は坂東先生のつながりもあって日本民踊で毎年参加する事になりました。当時坂東先生は理事長として大活躍でしたが、理事会の場所取りに遠く北の沢から何回もリンケージまで

足を運ばれ、とても気の毒に思い理事としてお手伝いする事になりました。また、その間外国の留学生と交流があり、各国の領事館にも出入りする事があり、中国、韓国、インドネシアには踊りでの交流の為参加させていただき、それぞれの国で素晴らしいおもてなしを受けました。

故谷口良一前会長のあと谷口エツ会長の行動力にも感謝し少しでもお役に立てればと務めて参りました。理事会の会場取り、理事20名にFAXを流す事が毎月の仕事でした。また、「第19回(2007年)チャリティーふれ愛フェスティバル」では司会の西岡由美子さんがお辞めになり、会長の強引な指名で私が司会を務めました。500人の観客、各国領事館の代表者の前で、外国の方のお名前がスムーズに言えなくて苦勞したのを思い出します。

また、北翔大学では、韓国の留学生との交流で日本の民踊を踊り伝えた事も良い思い出です。色々大変だったとは言え、全て国際親善の集いの御蔭と感謝しています。

永い間ありがとうございます。



創立30周年に寄せて

理事 渋谷美代子(若柳雅継)

この会に参加させて頂いて、15年という月日が経ちましたが、“札幌国際親善の集い”創立30周年という節目の年に終了という事になりました。ただ、30年と言いましても簡単な事ではなく、創立当時からいらした、現会長の谷口エツ様の実行力を始め、役員並びに会員の方々の協力体制のもとに成り立った、すばらしい集いだったと思います。振り返ると、この間毎年行われる行事の他、色々なイベントに参加させて頂き、多くの留学生や外国の方々とのふれあい交流が出来ました。

中でも思い出に残っているのが平成17年の中国瀋陽文化交流の旅です。

私は、私の日舞の師匠であります。若柳旭雅先生と共に参加させて頂きました。その時ホームビジットで訪問したお宅が、現在理事であります郎旭輝さんのお宅でした。

そこでは家中解放して下さい、手作りのおいしいギョーザをはじめ、色々なお食事をお腹いっぱいごちそうになり、とても温かく迎えて下さいました。

心地良いやさしさにふれ、今でも楽しかった思い出がよみがえります。その後も、郎さん家族との交流がありこれは世界平和に繋がる第一歩と感じております。

この会に参加していなければ、出来なかった様な貴重な体験を色々経験させて頂き本当にありがとうございました。

創立30周年を迎えて



「国際親善の集い」創立30年に思う

理事 所司 昭子

私が「国際親善の集い」に加わるようになったのは、谷口エツ会長さんからの誘いがきっかけで、平成14年6月には旧ソ連から独立1年目の中央アジアのキリギスに行かせていただきました。首都ビシュケク到着時には、花束を頂き初日の宿泊は迎賓館という歓迎を受けました。迎賓館ではアカエフ大統領夫人とマイラム元札幌総領事夫人ご臨席のもと、私達と留学生とで茶道を振舞わせていただいたほか、日本舞踊をご披露して大変喜ばれました。

キリギス滞在中にマイラム夫人のご案内でキリギスの景勝地イシク・クル湖畔に行きましたが、バトカー先導という国賓並みの待遇にビックリしました。観光満喫後にはその迎賓館で交流をして宿泊もさせていただき、思い出深く貴重な経験になりました。

当時留学生だったアルバエヌルザダさんは現在関西の明石にお住まいのため、以来16年もの長きにわたりお手紙のやりとりなどの交流を続け、現在は私の大切な友人のひとりです。創立30年にあたり、世界が平和で一つの家族になることをお祈りします。



札幌国際親善の集い30周年に寄せて

理事 ジョージ佐藤

平成の時代を歩み続けて30年の月日を迎えられた札幌国際親善の集い。

初代会長の谷口良一様、現在の会長谷口エツ様におかれましては、ただならぬ努力と葛藤の日々であったこととお察しいたします。

私は15年ほど前からの関りで主に、チャリティー翔ぬくもりワールド、ふれ愛チャリティーフェスティバルでの司会進行を担当させていただきましたが、いづれも貴重な経験をさせていただきました。

会長をはじめ、大西理事長、他の理事の皆様には若輩者の私を温かく見つめてくださいましたことを心より感謝いたしております。

今まで経験させていただきましたことを糧に今後役に立てたいと思っております。これまでの皆様のご努力に敬意を表し、今後の会員の皆様のご活躍を心よりお祈りいたしております。長い間おつかれさまでした、そしてありがとうございます。



「札幌国際親善の集い」の思い出

理事 森 千寿江

珍しく穏やかに過ぎた今年の冬も去り、桜の花が可憐に咲いた春に代わり、緑豊かで爽やかな初夏がもうすぐ、そこまでやって来ています。

今、私は「札幌国際親善の集い」で長年にわたり

培われた豊富な体験が次々と胸に浮かび、ただただ感謝感激致しております。

「ぬくもりワールド」では、華やかな衣裳を身に纏った外国の方々が、お国の民族舞踊はもとより日本舞踊も披露して下さいました。

ご出演の皆様にご優しさと努力を感じた私は、涙で胸が熱くなりました。

「ふれ愛チャリティーフェスティバル」では、留学生の皆様とテーブルを囲んでお話を聞きながら、楽しくおしゃべりさせて頂きました。

そして、楽しかった「野外親睦会」、等々。思い出は数え切れません。

それまで外国の方とは縁遠い私でしたから、「札幌国際親善の集い」に入会したおかげで視野が大きく広がったことを心から感謝しています。

谷口エツ会長様や関係者の皆様にご指導いただきながら、微力ではございましたが理事を務めさせて頂きました。会員の皆様にも多大なご協力を頂きましたことを併せて感謝し、心より厚く御礼申し上げます。



創立30周年に寄せて

理事 郎 旭輝

私が最初に札幌国際親善の集いに出会ったのは2004年でした。当時、札幌国際親善の集いの皆さんが市民団体の代表として、瀋陽市で開催される札幌市と瀋陽市の姉妹提携25周年の記念行事に参加した際に、地元市民と交流したいとのことで、私の実家をホームビジットされました。それをきっかけに、以降毎年札幌国際親善の集いの行事に参加させていただいています。時間が過ぎるのは早いもので、あっという間に15年が過ぎてしまいました。振り返ってみれば、毎年恒例の「チャリティー翔ぬくもりワールド」・「ふれ愛チャリティーフェスティバル」をはじめ、野外パーティーや留学生との座談会など、楽しい思い出がたくさんでき、大変貴重な経験をさせていただきました。札幌国際親善の集いの活動に関わった留学生達もきっとみんな同じことを思っていると思います。谷口会長をはじめ、関係者の皆様には心から感謝しております。

近年、札幌市や北海道を訪れる海外からの観光客が急増しています。これまで海外の方との交流や相互理解の促進に尽力してきた札幌国際親善の集いの地道な活動が札幌市の国際化に大いに貢献していると確信しています。札幌市や北海道の国際化は今後も一層進むと思います。今までの経験を活かし、これからも国際親善のために微力ながら貢献できれば幸いです。

最後に、皆様のご健勝とますますのご活躍をお祈り申し上げます。



「ありがとうございます」

理事 田尻俊一

30年ありがとうございました。そして、お疲れさまでした。

私が理事としてお手伝いさせていたのは後半の15年間です。その間大失態の連続でした。皆様に改めまして深くお詫び申し上げます。

さて、ここで一区切りとなるわけですが、周りからは「非常に残念」とのお言葉を多く頂きました。これも誠に私共の力不足であり申し訳なく思う次第です。

振り返れば、この30年間で札幌市民とふれあい、交流の出来た留學生が何名になるのかわかりませんが、平和な日本を目の当たりにし、市民とふれあった友情が小さな種となり、代を重ねいずれ大きく花咲き実ることを切に思うところです。



創立30周年に寄せて

岩澤智子（花柳 七智紫）

30周年を迎えられた札幌国際親善の集いに心から尊敬の念と感謝の気持ちを申し上げます。

私は平成21年にインドネシアと平成25年に韓国への文化交流に参加させてもらいました。外国で日本の舞踊を披露することや他の国の文化を見聞できたことに感動意を覚えたことを思いだされます。人と人とのつながりは世界共通であることを学びました。

国際親善の集いでの真の体験によって、私の中にも変化する部分が芽ばえて今後の人生にも大きな影響をいただきました。

これからもきっと札幌国際親善の魂は思い出となり忘れることはないでしょう。



「回想」

茶道教授 栗井 幸子

今から十二・三年前の事、年の暮にお元な頃の谷口会長御夫婦に、ある日、ある歌手のディナーショーに私達夫婦も、となりの席となり、その時が始めての出会いでした。その時御夫婦の札幌国際親善の会又外国人と日本人の交流を目的に、日舞のご指導ボランティアを続けている事を聞き感銘を受けた次第です。

「翔！チャリティーぬくもりワールド」「チャリティー国際ふれあいフェスティバル」等にお誘いいただき微力乍ら協力させて頂きました。インドネシアカルカッタの文化交流に参加のお誘いいただき始めて参加しました。その時は日本の伝統文化であります茶道を一期一会和敬静寂の文化を一椀の茶の湯にてインドネシアアガジャマダ大学の教授夫人の方々と交流を深めていただきました。それが御縁で平成23年5月にインドネシアジャカルタ大学教授夫人16名と北大インドネシア留學生十数名で両国の食文化交流と、その日好天氣に恵まれ野点接待でお抹茶を楽しんで喜んでいただきました。

一寸した不思議な御縁で谷口会長と親しくなりボランティアの協力お手伝いをさせていただいた事は私の人生の中に花を添えて下さいました。ありがとうございます御座います。



札幌国際親善の集い30周年によせて
北大留学生 鄭君達

谷口先生
拝啓

長い間、お世話になりました。

本当に、心から先生のことを感謝しています。

今までもはっきり覚えているのは、ちょうど一年前第29回札幌国際親善の集いで、先生の美しい踊りの姿を見た瞬間にもたされた感動です。それ以来ずっと先生のところでお世話になっており、日本舞踊、日本文化などをいろいろお勉強させていただきました。しかし、日本舞踊よりもっと大切なのは、先生が教えてくれた他人を配慮する優しい心です。ほぼ毎週、先生の手作りのお弁当を頂ける私たち留学生は本当に幸せだった。

その一人一人を思うながら作ってくれたお弁当は、私達と先生を交流させた架け橋だと思います。言葉が通じなくても、心はいつも繋がっています。そうしたお弁当をいただいた私が感じた「感謝」という気持ちは、私の一生の宝物です。

いつも先生のお稽古拝見した時に感じたのは、先生が職人としての魂です。その職人の魂が一番輝いた時は、先生が扇子を持ち始めたその一瞬です。それは、何よりも美しく、感激に堪えない一瞬です。私も自分の輝く瞬間を見つけるまで、頑張って生きていきたいと思います。

先生のご健康のほど、心よりお祈り申し上げます。



札幌国際親善の集い30周年によせて
北大留学生 リナ マハルディアニ

私はインドネシアから来ましたリナ マハルディアニです。約6年前、私は北海道大学の博士学生として札幌に来た際に谷口先生に会いました。私は今でも先生の伝統的な日本舞踊に感動したことを覚えております。ちょうどその時、先生から日本舞踊に誘われ、私はすぐに「はい」と返事をしました。私は日本舞踊を通して日本の文化や日本での生活を学ぶことができ、それはすばらしい経験でした。谷口先生と出会えたことは大変光栄に思います。これからは先生に教えていただいた日本舞踊をインドネシアで広められるよう、努めてまいります。先生が今後も日本舞踊の先生としてご活躍されることを期待しております。

に谷口先生に会いました。私は今でも先生の伝統的な日本舞踊に感動したことを覚えております。ちょうどその時、先生から日本舞踊に誘われ、私はすぐに「はい」と返事をしました。私は日本舞踊を通して日本の文化や日本での生活を学ぶことができ、それはすばらしい経験でした。谷口先生と出会えたことは大変光栄に思います。これからは先生に教えていただいた日本舞踊をインドネシアで広められるよう、努めてまいります。先生が今後も日本舞踊の先生としてご活躍されることを期待しております。

祝 創立30周年 おめでとうございます

新家比佐子	大西 勲	斎藤 晶一
佐藤美都子	渋谷美代子	ジョージ佐藤
所司 昭子	田尻 俊一	谷口 エツ
野上 光子	藤 節子	森 千寿江
八百坂康子	郎 旭輝	※氏名はあいうえお順

30周年記念座談会

大西：本日司会進行を務めさせていただきます、理事長の大西 勲です。よろしくお願い致します。まずは自己紹介を兼ねて一言ずつお願いします。

谷口：皆さん、本当に今日お忙しいところ30周年のこの記念誌の座談会にご出席下さり有り難うございます。特に、新妻先生とは8年ぶり位ですが、会の草創期から散々お世話になっておりまして今日お会いできてとても嬉しいです。どうぞ本日はよろしくお願い致します。



鄭：こんばんは。北海道大学の留学生の鄭 君達（テイ クンタツ）と申します。この1年間ずっと谷口先生のところで日本舞踊を勉強させていただいて、そして先生のところでお世話になっており、今日も機会を与えてくださって本当にありがとうございます。よろしくお願い致します。

野上：理事をしております野上光子こと藤扇千女と申します。今日は参加させていただいてありがとうございます。

藤：理事を引き受けてからちょうど9年目になります。もう30周年ということで、最後の理事会ですので、私も出席いたしました。藤節子と申します。よろしくお願い致します。

斉藤：私は産経海外旅行の斉藤と申します。ちょうど国際親善さんができた時の、会社そのものはチャーターメンバーとして参加させていただきまして、私は途中から代表の代わりとして参加していたわけなんですけれども、今日はよろしくどうぞお願いいたします。

八百坂：理事で副会長をしております八百坂康子と申します。この会が発足した30年前から30年間会員として今日まで在籍しております。今日はどうぞよろしくお願い致します。

新妻：新しい妻、新妻と言います。この会は、谷口先生のカバン持ちをしてポートランドに35周年のときに行ったり、大変思い出が深いんですけれど、20周年記念誌の編集でも大変苦労しました。今日はよろしくお願い致します。

大西：それでは、創立30周年記念誌座談会を開催させていただきます。30年前に、この札幌国際親善の集い創立したんですけれど、どういうことで創立に至ったかという、そもそものいきさつについて、私の知っている範囲では、ロシアの総領事館に谷口現会長が踊りを教えに行ったと。そこからが初めらしいんですけれど、最初、谷口良一先生、会長、確か私の記憶では金田先生が理事長、そして福田さんとか、斉藤さんも参加いただいたと私、記憶してはいますが、そのあたりの詳しいところを会長からお話しいただきたいと思います。

谷口：あのね、今日は座談会というのが中心で行くと思うんですけれど、それで、だいたい25周年の後のことを、どういうことがあったかという、そんなに25周年の後は、海外に行ったとかどうしたとかということは少なかったんです。それでもやはり締めくくりの年ですから、色々なこの5年間を超えた色々な思い出作りでお話ししていただきたいと思います。今日は大事な方ばかりいらっしゃいますので、本当に思いつくままに、気楽にそういう座談会でありたいなと思っております。遡って何年か前ということのほうが印象に残ることが多いと思いますから、どんなことでも結局、30周年にふさわしい、そんなこと知らなかった、初めて聞いたとい

30周年記念座談会

うことも出てくるかもしれませんが、そういうことで皆さん腹藏のない意見を、そして楽しく今日はまとめたいと思います。よろしくをお願いします。

大西：会長、この札幌国際親善の集いの始まったいきさつを会長のほうから、まずお話ししてくださいと、こういうことなんです。

谷口：これは、主人がロータリークラブで本当に活躍していた、そういう一番いい盛んの時に、札幌にはこれだけの外国の人がたくさん入っていて、国際都市と言われている割には何にも民間で国際都市で動いているものが1つもないと、そういうことで、何とか1つの団体、それを作るために一体どういうのが元になるかとい



うことで、主人も相当考えていましたけれども、ちょうど自分がロータリークラブに入ったばかりですから、ほとんどロータリアンにお世話になったり、そういう中の何人かにお世話になったり、きっかけは国際都市札幌にふさわしい何かそういう団体を作るということでした。そんな折、私が司会を務めたゾンタクラブの会で日本舞踊の舞をずーと見ていた方がいらした、当時はソ連領事館、その総領事夫人エリザベータさんでした。「お好きなんですか？」と聞くと「好きです」と「習ってみたいですか？」と聞くと「習ってみたい」それから毎週木曜日何年も領事館に通いました。そして1988年「チャリティー国際親善のつどい」をソ連総領事館で開催し、今30年こうしてずっと続いてまいりました。ありがたいことに、この米国、韓国、ロシア、中国4つの総領事館が、陰に陽に私たちに力を貸して下さいますので、こういう団体はあまりないと思いますので、やはり色々な意味で、それは感謝しながら大事にして、また今後はこれが切れるという、そういうことが1つと、それから若い人方、ここに10年以上いる若い男性の社長さん方、そういう人がスパッと切ってしまったら、本当に寂しい、札幌に、何にもつながるものがないということはちょっともったいないということで、今一生懸命そういう方が3人ほどで、また同じことはしないと思いますけれども、別な方向でそれを今考えている最中です。市会議員の女性が、私が一番力になっていただけそうなんですけれども、3月まで市会議員のご自分のそれを全うしないといけない。4月からはすっぱりと辞めるということを伺っていますから、そのへんでこの流れが全く終わるといいう、そういうのではなくて、また別な方向でこれが色々な意味でもって、そういう若い人方の力で、領事館も応援して下さいますから、そういう力を利用しながらスパッと切るといいうことはもったいないことですから、そういうことで、また皆さんのできる範囲のご協力をお願いしたいかなと思っています。30年はだてにやっぱりもったいないことですから、それを生かせるところは生かす、終わるところは終わる。そこらへんとしても、若い人の力がないと、これは大変なことになると思いますので。それで30周年に対して最も古くいるというのは、私と八百坂さんと、それからこちらの理事長と、本当の30周年らしい年月を経てきているというのはこの3人だと思う。斉藤さんは、ちょっと遅れて入っているんですもんね？

斉藤：そうですね。

谷口：私とやや同じくらいだと思ったんですけども、ちょっと遅れて斉藤さんお手伝い、そしてあ

ちこち海外に行くことも多かったですから、必ずそういう時は、こちらの力をお借りして、付いて行っていただいたり、そうでなかったり、斉藤さんがいなかったら25か所も世界中歩けなかったと思います。1つの国が広いですから3つぐらいに分けて行きますから、中国でもロシアでも、みんな広いところですから、3回に分けて行きますと勘定したら25町村、町村ってほとんど各都市ですけれども、そういうところにお邪魔して、文化交流としてお邪魔して、大変なこれは何となくやってきたことでも、やはりこの30年間の向こうも来る、こちらも行く、それをいい形でつないできたということは、やはりかけがえのないことだなどと思っております。皆さんがこんなことが一番印象に残ったってどんなことでもいいですから、そういうのを集めながら座談会の形式でいけたらいいかなと思っております。私は、最初主人が会長、私が副会長ですけれども、同時進行でほしい同じようなことでずっと30年間きていますので、私自身がやはり一番印象に残るということは、その時いた人、何人かいると思いますけれども、滝野自然公園あそこでもって大パーティーやったんです。ジンギスカンの。本当にバス4台ぐらい連れて行ったんです。大仕掛けなことでした。そこで、ジンギスカンのパーティー、大勢の方がそこで1つになって食べるということは、やはりすごいことだなどと思って、一番そういうことが私は印象的に考えて、その後は色々ありますけれども、まず、1つずつでも申し上げられるところがあったら。

大西：その都度話を振っていきますので、私の一応聞いた範囲でお話しいただくという流れでやっていただきたいと思います。今お話がありました通り、八百坂さんが創立のときからいるものですから、八百坂さんにこの点のところをお話しいただきたいと思います。

八百坂：道新だったと思いますけれども、国際親善の会が発足するよという記事を見たんですよ。それでこれは私が求めていた、当時、私は異業種文化交流会「トリアノン」というのを発足して間もなくでしたが、外国人との交流をプラスで是非入れたいなどと思っていた矢先にそういう国際親善の集いが発足するという新聞記事を見まして、すぐ駆けつけました。そして入会させていただきました。それから30年経つんですけれども、本当に谷口さんのバイタリティある、これと思ったら絶対にやり遂げる、その力を私も学んでお手本にさせていただいて、うちの会も頑張って20年続けました。そんなわけで私は今から10年前に異業種文化交流会のトリアノンを閉鎖いたしましたけれども、今回30周年で閉じるということは、とても寂しいけれども、また若手の人達にこれが引き継がれていくというお話を聞いて、何となくほっとしました。本当に心血を注いだこの会ですから、何らかの形で引き継がれていくということは、嬉しいことだなどと思っております。

大西：斉藤さんには海外交流にずっとお手伝いいただいて、非常にこの交流については詳しいと思いますので、そのあたりのところをお話しいただきたいと思います。

斉藤：斉藤です。自分の息子が今25歳なんですけれど、先ほど会長がおっしゃった滝野公園で色々最初、外国人の留学生が来られたときに、一番交流というのがハイキングをして、そして一緒にバーベキューであるとか、食事するとか、そして、あそこでダンスだとか踊りをしたりということとか、片付けものとかもけっこう鉄板を洗ったりとか、しゃんしゃん焼きでしたっけ？ お肉食べれない人はしゃんしゃん焼きだとかっていうのを。ちゃんちゃんでしたっけ？ ちゃんちゃん焼きですね。あれのときのやはり自分の息子、そのときまだおぶって、1歳とか2歳だったんですけど、おぶって登ったのは覚えていたりします。それから海外旅行に、先ほど出た話、

何回ぐらい行ったのかなというふうに、自分は全部行ったわけじゃないんですけど、記録を今、見てみたら一番最初に行ったのが、新潟からハバロフスク、そしてノボシビルスク、そしてモスクワ、レニングラード、あのときには八百坂さんも行かれてて、赤の広場とか、非常にその当時はまだソ連と言われていて、レニングラードとかっていう名前も今ではないですけども、今はサンクトペテルブルクですか？ というような時、それが一番最初のときでした。その次に1998年に札幌サハリン文化交流ということで、サハリンに行きました。そのときには、谷口良一先生が生まれたところがサハリンだったという、違いましたか？ その時住んでたことがあったんでしたっけ？

谷口：生まれたのは日本なんですけど、向こうの学校を出て。サハリンの学校。

谷口：それであそこのサハリンの高校ですか。 それに入るのが本当に夢だったという話を、いつまでもおばあちゃんと一緒に住んでいましたから、おばあちゃんの生きがいだってって、サハリンの一番いい豊原中学に入るのが。そして思ったところにちゃんと入れて、それで思った東京歯科だのなんだのちゃんちゃんちゃんと、割と順調に行ったほうですね。でも引揚者だということでは、皆裸で写真をまず撮られたって、何度も。持って帰ったらだめだって、本当に裸ハチカンで、ひどい目にあって、自分が親代わりでしょ？ 両親が弱いから、そして兄弟6人、2つおきにだーっているんですよ。だからその皆の手を引きながら小説だっていつでも言っていました。

齊藤：そのサハリンに文化交流で行ったところ、そのときにちょうどストライキ、労働者のストライキだったものですから、電気が、労働者がストライキで電気が止まっています、ホテルについたら電気が止まっているので、我々の文化交流の荷物を部屋まであがるのも、結局6階でも7階でも、階段でスーツケースを持ってあがって、部屋には電気がつかない、そしてシャワーを浴びるにも、それこそ電気が通じないので水が出ない、上がらないというところの、そんな思い出もあったりとかしながら、サハリンの文化交流に行ってきたのが自分にとって2回目でした。その次に今度は2002年にキルギス共和国という所に行ったがありました。そのキルギス共和国で今でも一番覚えているのは、そこでお嫁さんを見つける時には、お見合いとかではなくて、それこそ略奪じゃないですけども、人さらいじゃないですけども、拉致じゃないですけども、そういうような方法で、お嫁さんを見つける。それは全ての人が全部拉致されたりだとかしたとかどうかというのは、そこまではわからないですけども、その結婚相手を見つけるときには、そういう奪うというようなこととか、あとは本当にそこは自分が生まれた昭和35年ぐらいのような感じで、まだまだお手洗いや水洗トイレとかというのはなく、やはりその移動中のドライブインは穴を掘ったところに板を乗せて、そこでお手洗いをするというような、田舎にいくとそういうような所であるとか、そういうキルギス共和国という所に2002年に行ったことと、その次には、北大のアリさんでしたか？ インドネシアの方のご実家であるインドネシアのジョグジャカルタという所に、ジョグジャカルタに2009年に文化交流で行って、向こうで交流した記事とか、そういったもの向こうの新聞とか



に載ったりとかしたんですけれども、そのジョグジャガルタ、インドネシアのほうに行ったことがありました。あそこはお酒が宗教の関係とかで、我々が泊まったところ大学のすごくいい寮の中の貴賓室みたいな所でずっと滞在中泊まっていたんですけれども、ただアルコールは全くその中には滞在中なかったということが覚えています。その後、今度インドネシアの方々が札幌に逆に来られて、そしてちょうど桜の時期だったんですけれど、ちょうど『かでの』でも、そこで踊っていただいたりとかというようなこととかがあったのも覚えています。ちょうどその時に震災があった頃でしたので、向こうのインドネシアの子ども達が応援の日本頑張れというような絵をいっぱい色々書いて持ってきてくださったのが覚えています。その後2013年に札幌と姉妹都市なのか、韓国の太田（テジョン）に行って、そして文化交流をして帰りにソウルで、ソウル大学の日本語学科というんですか？ その所で、学内で、文化交流で皆さん方、踊りであるとか、そういう交流をされたのが2013年でした。一応今、始まる前に書き出してみたら、私はその5回ほど一緒にさせていただいたのが、覚えております。

大西：新妻先生、「私と札幌国際親善の集いとのかの関わり合い」ということで、そんな感じでお話しいただけますか？

新妻：それ話したら長いですよ。

大西：長いんですか？

新妻：八百坂さんね、20周年記念誌を持っていらっしゃるけれど、私編集したんですよ。齋藤勝弘さんと。大変苦労しました。今度30周年記念誌、どなたが編集なさるかわかりませんが、きつとえらい目にあうと思います。本当に苦労しました。谷口会長さんから色々な写真いただいて、それをどこでもよかった。それはたくさん写真ありますからいいんですけれども、原稿を書いてくださらないことには始まらないから、本当に苦労しました。でも本当、僕は滝野自然公園。僕は率先してやったのはフォークダンス、皆の色々な国のフォークダンスを調べて、その国のフォークダンスと一緒に、それから旗も4本作って、色々歩いて、韓国の方々、あとの食器を洗うのに水をいらないよといって、砂利、砂を持ってきて、ずーっとこねて綺麗にしてくださる。これが国際親善だなと思いました。家内は13年前に乳がんで亡くなりましたけれど、うちで実行委員会を開いて、全部シールも作って、テープも入れて、本当に滝野自然公園のハイキングが思い出します。色々なことがありました。

僕は、おじいちゃんがサハリン、樺太の落合にいたものですから、だから率先して樺太に行きました。そして谷口良一さんとも岩見沢の先生、お友達の、その方に進められて国際親善の集いを覚えたんです。岩見沢から理事で札幌に出てこられるし、一緒にしたんですけれども、良一さんもお亡くなりになられて本当に寂しいです。ただ30周年経ったかなと思うんですけれど、来年は札幌とポートランドの60周年記念ですから、北海道新聞の12月23日の道新に載っていました。だから、本当に最初はないけれど、色々な思い出がありますけれど、やはり滝野のような、あれが原点じゃないかなと思いますけれど、ジンギスカンをつつつきながら、最後こんな食器洗うところまで、なるほどなと思いました。いずれにしても、歴史は1年1年経つわけですから、節目節目に記念誌出しておかないと形を残したほうがいいんじゃないかなと思うんですけれど、話せば長いですけど、以上です。

大西：また後でお話しいただきますけれども、今度は、野上さんのほうにマイクを回していただいて、野上さんと札幌国際親善との関わり合いのお話をいただけますか？

30周年記念座談会

野上：最初に国際親善に参加したのは、私が踊りを習っておりましたので、その出る場、舞台に出させていただきました。それで、3年か4年ぐらい出ていたんですけども、ちょうど仕事も退職いたしましたので、東京からカッポレの師匠ですとか踊りの師匠が来ていましたので、なかなか東京の先生に習うことができないので、マスの習った踊りを教えてほしいということで、私が教えることになりました。教えることになりましたから、今度そのお弟子さん達が舞台に出るようになりまして、おかげさまでとても苦労もしながら、また踊りも上達する生徒さんですとか、健康のために、老人のボケ防止と健康のためにということで、とても楽しんでお稽古をし、そして大きな舞台に出させていただいて喜んでおります。この会が30周年で終わるんですけども、また、お稽古は辞めないで、そのまま続けていくと言っております。本当に楽しい会でした。私も初めは理事でなかったんですけども、理事になってくださいとお誘いを受けまして、何かお手伝いできたらと思って理事を引き受けました。それで今日に至っております。



大西：同じ題で藤さんにお話しいただきます。

藤：斉藤さんの楽しそうなお話をとても参考になりましたけど、もうこれで終わりということですが、私が理事をしてから一番の思い出としては、24年度でしたか？ インドネシアから15名の大学の教授夫人が来札されて観光巡りですね、それに私はほとんどついて歩きました。羊ヶ丘の公園、小樽の市内観光、小樽の貴賓館でのお食事会、小樽市内の運河だとか、オルゴール堂というところでお土産をあの方々がどっさり抱えて楽しそうに帰られたと思います。道庁がちょうど5月の季節でお花がきれいな時でした。桜が満開でその下で写真を撮ったのが、皆さんニコニコして、その写真がいまだに私の手元に残っております。日本庭園でお茶会をしたときのことも私としては、野点の会は初めて参加し、インドネシアの方々も非常に感激しておりました。自宅にお招きいただいて30名以上の方が日本食と留学生の方が、インドネシアのお料理を作って、おもてなしされました。逆に、日本からはのり巻きを作ったり、日本料理としてお漬物を出したり、盛大なお食事会がいまだに印象に残っております。理事として何かできることは、と思ったら、会合のあるときの受付に座って入場券をいただいたり、パークホテルのパーティーでも受付をやらせていただきました。民間でこの会を30年間続けられた会長に感謝致します。



大西：では、北大留学生テイさんのお話を伺います。

鄭 君達：まず再びこういう話をできる貴重なチャンスを与えてくれてどうもありがとうございます。私、日本語はそんなにうまくないので、もし不注意でおかしい日本語を口に出したらお許しください。

先生から日本舞踊の教室に通っていたその感想をくださいと言われて、私、感想より、この1年間何を勉強したのかということをお話したいと思います。まず1つ目はもちろんダンス、日本舞踊なんですけれども、先ほどもおっしゃいましたけれども、文化交流というキーワードが何度も繰り返しておっしゃいました。私も個人的な話になりますけれども、私は本当に小さ

い頃からずっとダンスをやり続けていて、もちろんバリとか中国伝統的なダンスも色々やりまして、でも、日本舞踊と初めて出会っていたのが、本当に先生と出会ってからの話なので、だからこういう初めてインドネシアの友達から「日本舞踊やりませんか？」と聞いたらもちろんやりたいなと思って、参加しました。この教室にいて、先生と出会った前にまずイメージしましたけれども、まさかこんなきれいな素晴らしい、もちろん私のおばあちゃんと、ほぼ同じ年齢の先生が私たちに日本舞踊を教えていただいたのは、本当に驚いていました。なぜかという、私のおばあちゃんは本当に先生とほぼ同じ年齢で、歩くことさえもそんなにできなくなっている、でもこういう年齢でまた先生がこんなに一生懸命、私たち外国人に日本舞踊を教えていただくのは本当にとても大切だと思います。これは1つ目なんですけれども、2つ目は先生のとても優しい心を勉強しました。なぜかという、私たちの日本の教室は2つのパーツがあります。1つ目パーツはもちろん先生からダンスを教えています。そのダンスの部分が終わってから私たちは簡単にティータイムみたいな、皆がテーブルを回って座っていて、先生が自分が本当に作っていた手作りのお弁当を皆さんに出して食べさせていただいたんで、そういう待遇がとても大切だと思っていたのが、なぜかという、私だけじゃなくて私を含めて例えば中国人も何名かいて、インドネシア人も何名もいて、もちろん色々な国籍の方もいらっしゃいまして、そういう場合は、もちろん日本語があまり通じない方もいるんです。でも、そういうことがあってもそれにしても、皆さんがとてもいい雰囲気です。食事をしたりして、本当に言葉が通じなくても、とても楽しい気持ちと一緒に食事を食べたりして、話す時間をシェアしています。それが、なぜそういうことができるかというと、先生がとても優しいので、どの国の人を問わず、まず人間として人として受け入れているので、私たちがそういうタイミングがあっていると私は思います。3つ目は、やはり先生が日本舞踊のダンサーとしての職人の魂だと思います。こういうことも私、10月に国際親善の30周年の集いの最後で、これはまさか私と先生の最後の舞台かなと思ったら、先生に私の気持ちを込めて手紙を書きました。その手紙の最後で、私やはり「一番勉強したことは何でしょうか？」と思ったら、やはり先生のその職人としての魂です。こういう年齢で、またダンスを続けていって、努力かなと思って、そしていつも先生の動きをみたら、これは日本舞踊だなと本当に心からそう感じました。そういうことが本当に一番感心したことだと思います。以上です。ありがとうございます。

谷口：立派だね。本当に、なかなか繊細で。

大西：本来ですと、本日、若柳旭雅先生にもおいでいただきたかったんですけど、色々ご用事でご出席いただけなかったんです。若柳旭雅先生には、ぬくもりワールドとかフェスティバルとか、大変お世話になりましたし、大変感謝しております。そして、事務局次長の新家さんが出られなかったということで、これは新家さん当然出席していただけるということだったんですけども、急きょご主人の体調が悪くなった、ご本人自身も足をちょっと痛めてしまったということで、病院に行ったりで来られないということでした。民謡舞踊等、大変お手伝いいただき感謝しております。それから、ジョージ佐藤さんも大変お忙しい方で、出席できなかったんですけども、ほとんどの会合の司会をやっていただいたということで、お世話になりました。感謝したいと思います。そして今日出席できなかった理事の皆様にも大変お世話になりましたことをここでお礼申し上げたいと思います。あとは自由にお話しいただきたいと思うんですけども、トピック的なお話でインドネシアのガジャ・マダ大学学長の夫人ご一行が来られたと

30周年記念座談会

ということか、これはもうかなりお話しいただいてました。それから、韓国の日本語大学学長先生ご家族がおいでになったお話し、あるいは、坂東先生は国際親善の集いにとってはなくてはならない人だったので、坂東先生のお話しですとか、まだいくつかあると思うんですけど、インドネシアの学長夫人が来られたときの事、藤さんがかなりお話していただいたんですけど、会長、もう少し付け加えるところがありましたらお話しいただきたいと思います。

谷口：藤さんが先ほど、だいたいインドネシアの方のご招待、ご接待、それをだいたいのところお話ししていただきましたから、特に付け加えることっていうのもないですけども、私はやはり責任上、本当に色々な意味でガジャ・マダ大学という大学の学長の奥さんがあのときに責任者で来ていましたから、15名、見事な踊りで。そしてなかなか札幌に来て踊るといって、相当稽古を積んでいますから、だから自信を持っていらしたと思いますし、そしてまた粟井さんのところで、本当にお茶道具、庭園も皆揃っているお宅ですから、日本人も入れて30人もいましたでしょうかね。それで日本の手作りのお料理、ほとんど粟井さんの手も借りたり、それから私たちそこに参加した者は、やれる範囲頑張って、そしてそれが楽しくて楽しくて、生まれて初めて日本の人のそういう茶話会なんていうのがあるようでないと思うんですけど、ましてインドネシアの。それも皆さん、ご主人が全部ガジャ・マダ大学の教授なんです。ご主人が。その奥さん方ですから、なかなか知性豊かな、そして踊りも何年もああやって続けて、素晴らしい踊りを発揮できたのかなと思って、平均年齢も若いですものね？ まだ。あの通り。だからだいたいご主人の一番いいところに奥さん方も人の輪を作るといって踊りもあったのかなと思ってます。奥さんが中心でやっていましたから、ガジャ・マダ大学の学長の奥さんが。そして15人和気あいあいと本当に私たちも行ってきましたけれども、また、それに応えるべくこれで目一杯だったかなという、そんな感じで色々なことで、私たち歓迎をさせていただきました。そして最後の夜にガジャ・マダ大学の学長夫人、その方が涙をいっぱいためて、私たちはこれで15人4泊5日で大変なご接待を受けたって、だけど私たちは谷口さんがインドネシアに来たとき、これだけのご接待したんだろうかって。本当に自分では、十二分にさせていただいて、私たちはどれだけのことをしたのかなということで、反省させられますと涙ぐんで、話していらっやいましたから、あれはあれで、私精一杯皆さんの力で大成功だったと思います。なかなかあれだけの15人の踊り、そしてあそこの街では、やはり全部教授夫人ですから、それだけの姿勢もあるし、素晴らしい会合であったと思います。私たちもまた、向こうに15、6人でしたか？ 斉藤さん。

斉藤：そうです。

谷口：ガジャ・マダ大学に向かって、そしてら本当に向こうも大学の迎賓館のようなちゃんと泊まる場所があるんです。お客さんの。そこへ皆割り振りして泊ませてください、そして私たちが3回ぐらいは場所を変えて講演して、もちろん新聞にも出る、何も出ると思って、大仕掛けな歓迎をしていただきました。そして、あと余った時間は、あの寺院、斉藤さんなんて言うんですか？ あの立派なホール寺院。

斉藤：ボロブドゥール寺院。

谷口：そうですね。本当に印象に残る、わざわざそれだけのために皆さん行くんですから、私たちは文化交流、文化を広げながら余分にそういうことも見せていただくという、フル回転して、割と気楽に連れて行ってくれたところで、簡単なハンカチのような染物、それも皆さん1枚ずつ

自分の手書きの染物をあれしてくださったり、インドネシアではこれしかできないというだけの歓迎をしてくれました。そして、学長夫人のおもてなしで、学長さんがちょうどいる頃に手料理で私たち行った者が馳走になったという、そういう記録もあります。そういうことを色々としていただいたものですから、向こうの15人がこっちに来たときに私はこれでいいのかな？これで皆さん満足したのかなという、そういうことばかり考えていました。それでも主人も元気な時期でしたから私の家にもちょっとお招きして、そして何だかんだいって、やはり個人の家にお邪魔するということはありがたいことです。それで夜7時に会食があるから、何もたくさんものを食べるとかというより、色々な会話を楽しんだというような感じで、だからあの方4泊5日でいらして、本当にフルフルにあちこちお見せしたり、食べたり、悔い残らないという私はそういう印象があります。それでガジャ・マダ大学の学長夫人が、私たちこれだけ皆さんから色々良くされて、私たちはこれだけのことを皆さんにして差し上げたんだろうかというその言葉が、私は印象的で、目一杯させていただいたということが向こうではちゃんとそういうことで答えてくださったんだなと思って感謝しています。やはり国際交流、これは実際にやった人じゃないと、その良いのも悪いのもできませんけれども、この国際親善のいいところは、体を張って、どこの国にでも、街というより国は十何か国ですけれども、実際に細かく行ったのは25回行っているんです。それは皆さん25回行った人がたは、だいたいお茶の先生と、時々お花も入ったりして、3つの文化で交流してきた。だから皆さん若かったし、本当に主人も紋付羽織でご挨拶して、ステージで、そして亡くなる2、3年前までフルフルに行っていましたから。キルギス共和国にはなんで連れてこなかったって、総領事さんが私が皆で行ったんだけど、見たら谷口先生がいなくて言うの。先生に見てもらいたかったのもあるから、もう1回来ないと駄目だよ。そして2年ぐらいおいて行ったんだね。

斉藤：はい、そうです。

谷口：確か。同じ、2年ぐらい行って、そのときにも一番、一生の間にあいう歓迎をされて私たちは、二度と味わえないということをお話したとおり、日本に帰る飛行機に間に合わないんです。キルギス共和国にいて、それでもって、日本に帰る飛行機に間に合わせるために、国賓にしか使わないという16人乗りのセスナ、それを私たち一番お世話になった、アブドラザコフご夫妻が、命がけでその飛行機を出してくれたの。16人しか乗れないのに。セスナだから。そして、余分なことですけれども、国賓を乗せるという人は、それこそスチュワーデスも素敵、それからパイロット、それも素敵、この選ばれた人がこういうところで皆さん一生懸命働いていらっしやるんだな。本当、16人乗りのセスナにぎりぎり座らせられて、そして羽田に発つ飛行機に何とか間に合ったんです。あれは国をあげて大変な予算だと思えます。そういうことを、それだけ力もあったんでしょし、それだけの経済的にもずいぶん私たちのために大変な目にあれしたかなという感じもつくづく感じました。そしてキルギスではこれしかできないと思っただけ。おもしろい作りの何て言うんですか？こう作ってある。

斉藤：羊じゃないですけど、頭ですよ？

谷口：広いところで食事するところ。それを本当の来賓用に作ってあるんです。ちゃんと。それでもって電気は全然使わないで、ろうそくで、それでもってキルギスのお料理を毎日、手を変え品を変え同じものを出さない。それであってハートもあるし、またお料理が上手、そしてそのアブドラザコフさんのご夫妻とあんなだけ世話になって、札幌でも6年間お世話になって、それがこ

ないだ2人とも、後を追うようにして亡くなったの。だからそれが残念で、本当にキルギスは、私たち30年色々なところに行ったり、色々な体験をしましたけれど、キルギス2回行きましたから、それほど2回行って、本当にこれ以上できないという外国のハート、それを感じて帰ってまいりました。それから、あちこちずいぶん回りましたが、やはりホームビジットというのが最高ですね。レストランでものを食べるというのではなくて、そこの手作り、それを必ずちゃんと用意していて、ご馳走になってくるという、それが良くて行っているのかなという感じもしましたが。そしてもちろん韓国の踊り、日本の踊り、必ずそういうステージがあって、そして最後は打ち上げに主催者のお宅にご馳走になりに行くんです。そういうふうな段取りしてあるから。だから、そういう大変な目にあってお邪魔した人だから、そういう数少ない、誰も体験できないようなそういう体験もさせられたのかなという感じがします。ひどい目にあって行くんですから、行くのも。経済的にも色々な意味で大変にやっていますから。だけど、そこでもって、それをちゃんと受けてくれるような段取りが、ちゃんとハートがあるおもてなしがあるんです。だから国際交流は、私たち国際親善30年いた間に、もうこれしかできなかったというフル回転したんじゃないかと思っています。そして、札幌では北大の留学生の方が、日曜、日曜に踊りで3年か4年しかいないから帰るんですけど、またその人が誰か連れてきてくれるということで、本当に日本の踊りを、そして、またその踊りを5月と10月に振袖を着て発表するというチャンスがあるんです。なかなかそこまでは普通いけないんですけど、踊りでいっぱいなんですけれども、ちゃんとそういう着るものも着て、そして日本の色々な文化を体験して、皆さん、お帰りになったかなと思います。だから一番印象に残るのは、やはりキルギス共和国です。何だかんだで。他のところも色々行きましたけれども、悪い印象も1つあります。もう、とんでもない印象。私が中国で娘道成寺か何かのさわりを踊るのに、全部衣装をトランクに入れて、そして今度、実際にその係は今、先生が休んでいるからそんなことを言われたいんですけど、本当にその衣装が丸ごと入って、そしていいものを私は持って行ってましたから、全部原価計算したら240万。衣装皆。自分でもって作ったものやら、買ったものやら、もう本当に帯1つでもぼりっとしたものを入れると何十万ですから、240万。それだけ全然、それもいよいよあの手この手とやったけれども出ませんでした。だけど、人が事故にあったとかじゃないから、20人も行っているから、誰も交通事故に1つあったわけじゃない、皆元気で帰ってきたんだから、これは私、会長という立場でも仕方ないんだわと自分で言ってきたかして、やはりそれが一番ショックな出来事でした。私にしたら。あとは大変な目にあったけれども、ここまで来て大変な目に合うのは当たり前なんだから、そういうのを自分で言ってきたかして、だから英語の1つもできない者が、よくぞ心臓強く世界中こうやってあちこち回らせていただいて、そして札幌に来た方は、必ずそれに答えるように、私たちも皆さんのお力を借りて、サッポロビール園に行ったり、どこへ行ったりして、本当に札幌のいいところを、皆さんに、来た方には体験させていただいたかなという、そんな。ようするに30年があつという間に過ぎましたですね？そしてやはり北海盆踊りの札幌のコンテストがあったんです。北海盆踊り、皆衣装を着けてやるんですけど、そのときに150組出たんです。それで私たちの国際親善は25か国参加していますから、はんでん着たりなんなり。その人がたに北海盆踊りを振りを特訓して出るんですから、それでもって、そうでもない立派な盾と、それからあのときはまだ珍しかったんですけど、テレビ、そんなのもいただいて、1等です

から、そういう体験もありましたし、皆も喜んでそういうのに参加した人がた良い体験したって喜んで帰りました。札幌で1番になったって。本当150組出ていますから、大変なことなんですけれども、語ればなんぼでもあるけれども、やはり印象に残ることというのは、それでも死んだ生きた、そういう大変なことがなくて、物で済んだからいいわとか、そういうようなことで私は納得してきました。そして、留学生も毎週日曜日に、皆真面目に本当に踊りの好きな人が、好きな人を連れてきて、これで3年間いたから帰るんだなと思って、この後寂しいなと思ったら、それなりの人また連れてくる。そしてまた1からやる、そして発表は5月と10月に必ず振袖を着て発表する。それがやはり留学生の人の思い出になったんじゃないかと思います。皆さん、喜んで。だから30年、あっとも夢の出来事ですけれども、それでも精一杯、私は手抜きしたり何だり、そういうことは間違ってもなく、これで精一杯させていただいたなというそういうので感激でいっぱいです。30年ほとんど病気もせずに、本当に病気して入院したとか、そういうことなかったです、30年。それで最後にやはり何にもないで終わらないですよ。この腰が。最後にこれすべり症っていうんだね。下から4番目の骨が出るんです。そういう毎日、本当にリハビリ、リハビリ、週に2回欠かさずに1年行ったら、少しずつ良くなって、ここにも来れるようになったし、だから私は本当にガンでなくてよかったなど。感謝しております。

大西：今のトピック的な話、かなり、私はインドネシアで質問したんですけども、かなり範囲が広がりましたので、実は、坂東先生が理事長ということで、ずっとご活躍されたんですけども、ご病気で倒られたということで、急きょ私が理事長をやりなさいということになったわけですけど、とてもとても坂東先生のようなことはできなかったんですけど、新妻先生、坂東先生とは、色々な長いこと付き合っていることですので、坂東先生についてちょっとお話しただけですか？

新妻：坂東先生については谷口エツさんがお詳しいですから、結局、私の兄が白楊小学校の校長をしてました。そのときエツさんは白楊小学校PTA会長。そんな関係もあるんです。坂東先生は札幌師範の私の兄の後輩ですから、その人脈がとにかく退職したら国際親善頑張るよ。僕はもうヒマラヤのほうで忙しいんだからって坂東先生にお願いしたの。先ほどのエツさんのお話で、僕も大変な思い出があります。ヒマラヤで色々な方々から寄付金をいただいて、ザイル、ピッケル、アイゼンなかったら登れないでしょう？ 横浜から、船。飛行機積めないから船で送るでしょう？ インドについたらナッシング。全然一切ないの。だから寄付金をもらって買ったザイルからピッケルからアイゼンからなかったら山に登れないでしょう？ そういう経験もあります。ですから、荷物は手から離すなということです。本当です。日本ぐらい治安のいい国ないですから。そして雰囲気も良くない。雰囲気ってトイレに入ったら、その航空の職員がちゃんと2人後ろについているの。それで金出すの。だから本当に日本という国は治安が素晴らしいですよ。ただポートランドに行ってよかったのは、グッドサマリタン病院、ボランティア活動、その金バッジをつけているおばあちゃんがいるんですよ。私はここで50年ボランティアやっているとか、どんなことやっているか。来た手紙をベッドまで運んであげる、そんななんだけれども、1週間に自分が来る日、曜日を決めておいて、50年やっ



てますか。30年やっている人はシルバーのバッジ。グッドサマリタン病院のボランティア活動にヒントを得て、札幌に帰ってきてから市立病院に言いました。市立病院でそれを採用して、今、成功しています。ですからやはり、国際交流というのは、よその国のいいところを勉強して持ち帰ると。それと自分の地域社会に生かすと、そういう視野も広がるなど思いました。谷口さん偉いと思うのは、学生に何もお土産あげられないけれども、体に日本の文化をあげるよとって、教室なさっている、素晴らしいことだなと思うんです。そういうのは、生徒は国に帰っても体に備わっているんだから、カルチャーとして、いいことなさっているなどと本当に思います。だから、私もあっちこっちから引っ張りだこなものだから、坂東先生に理事長をお願いしたわけ。まさか、その坂東先生が倒れると思っていませんから本当に残念です。ただこの会の若手、どこの会も高齢化ですから、若手を、精神を継いでくださる若手を育てないと、やはりそうですね。本当にそう思います。例えば今、私がやっている三角山の緑を守ろうって、札幌からみたら進駐軍が昭和23年に入ってきた、藻岩山にスキー場の跡が見えたでしょう？今やっと木が育ってきて見えなくなりました。恵庭の各コースまだ跡が駄目です。やはり50年経てば何とか自然が蘇生するわけだから、三角山もエツさんの家からみたらがぼと傷跡、未だに醜いですよ？大倉山もジャンプ台も一番えぐられたのが見えるわけ。今、市長に交渉しているんですけども、新幹線の土を持っていったり、そんなもんじゃないんです。やはりあそこは安山岩だから別なもので持っていったら雪崩れて、毎年崩れるんだったら新幹線の土砂を盛っても意味がないから、自然回復を待つよりしょうがない。それには、若手、三角山小学校とか大倉山小学校の子ども達に、現地に各集会して、観察会して、スケッチの会もやって、そういうことを今やっています。人脈です。人脈。しみじみそう思います。

田尻：大西さんのお話を聞かせてください、大西さんも最初からいらっしゃるので、

大西：私は今日、司会ですから、あまり話す予定はなかったんですけども、皆さんが記憶があるトピック的な話をさせていただきたいなど思っていましたので、私はたった1つですけども、お話しさせていただければ、先ほども出ました、韓国の日本語大学の学長さんとご家族がいらっしゃった、色々な北大ですとか、あちこち一緒にいただいたんですけども、パークホテルでも1度会合がありまして、カラオケ、両方の韓国のご家族の方にも歌っていただいたり、こちらでも歌ったりしたんですけども、それが終わって帰るときに、私と学長さんと2人だけで、タクシーに乗って帰って、ススキノで降りて、氷の彫刻がやっていたんです。やはりあれは素晴らしい、学長さんも大変感激していました。ただ、すごく寒かったものですから、とても寒いから学長さん、この近くに小さいスナックがあるからちょっとそこで温まりませんか？と言って、ご一緒したんです。そうすると、その店もあれだけススキノ祭りやっているのにお客さん誰もいないんです。ママさんと女の子しかいないし、私と学長さんと4人で、散々カラオケを歌って帰ったという記憶があります。

田尻：大西さんが会に入られた時のその辺のところを。

大西：私も明確には、いつ入ったという記憶がないんですけども、会員としてはけっこう古くからいたんです。ただ最初の頃はむしろ家内のほうが色々やらせていただいたというか、家内はロシア、ユジノサハリンスクも行っていきますし、ドイツにも行っているんです。ですから、そういうことだったんですけども、そのうちに会計がなかなか大変だということで、会計のお手伝いをしていまして、先ほどお話ししました坂東先生が倒れたということで、代わりをや

りなさいということになってしまって、今日に至りましたと。

大西：田尻さんお願いします。

田尻：私と札幌国際親善の集いは、30年くらい前ですね、取引先の人に誘われて「ちょっとパークホテルで会があるから券を買ってくれ」というようなところから始まって、その後、印刷物を頼まれて、15周年の時に多くの理事の方が退任されて、新しい理事が必要となり、それから理事を務めさせていただいております。記憶としては先程もハイキングの話がありましたけども、私もハイキングの記憶がずっと鮮明に残っております、札幌駅北口に集合し大型バス何台も行って「すごいなあ」と、青少年山の家でのバーベキューには、韓国の総領事の奥さん方が前日に何百人分も手作りされた餃子を差し入れていただいて、ちゃんちゃん焼きと一緒に食べたりとか、新妻先生のフォークダンスも覚えております。

大西：色々ありましたけれど、小樽に留学生を連れて行ったというのは、あんまり古い話ではないんだけど、このことを覚えている方、お話しできる方、あればお話していただきたいなと思うんですけど、あまり記憶ないですか？

野上：留学生のいろいろな行事、催し物の時の話ですけど、まず第一ホテルで留学生の日本に来てのスピーチ大会が何年か続きました。その時もとってもいいお話が聞かせていただきました。それから、日本の食事ですとか、文化に触れるということで、小樽に食事に行きました。ですけど、お国柄、豚肉は食べられないとか、それでみんな食事している時でも、夜まで何も食べないで、買い物に行っていられて国の方もいらっしゃいます。皆さん、とってもお料理も楽しんで、喜んで、そして歌をうたったり、とっても上手な男の方と踊る方がいましたのね。そういう方もいました。それから、KITA ホテルという中島公園の外れのホテルでお食事会をしました。お昼なのにとっても充実した安い料金なのに、一人ずつの洋食のマナーしながら食べたんですけども、そのホテルも今はなくなりました。それで経営者が代わって、ランチも食べに行くことができなくなったんです。ですから、あそこで安いお金で十分なマナーのお料理ができたというのも思い出かなと思いますね。あとは、生徒たちがいろんな関りを持って舞台に出る時にも、そういう時に特技を持っている生徒さんがいらして、各国の留学生の方がいらして、それで舞台に出演させていただいて、一段と国際親善が深まったんじゃないかなと思います。

大西：あとは自由なんですけれど、ぜひどなたかお話いただけませんか？

田尻：いま留学生の方のお話が出たんですけど、留学生の方にお聞きしたいんですけど、日本に来る留学生として、その過程というか、どうして日本に来ようと思ったり、動機とか、きっかけとか、教えていただければと思います。

鄭 君達：個人的に日本に来るのが、小さい頃の夢というか、そういえるだと思わうんですけども、私、小さい頃からずっと日本アニメーションとかずっと見ながら成長していたので、だから日本の生活はどのような生活なのかずっと考えて、やっぱり実際に日本に来て体験したいなという考えがありました。でも実際に本当に決まりましたというのが、大学生の時に日本語を勉強してきたのが大学3年生からなんですけども、そういう時は本当に日本に来て留学したいというわけではなくて、ただ日本語を勉強したい、日本文化に触れたい、というだけなんですけども、でも日本語を勉強しつつ、もちろん試験を受けて、ますます勉強していたら、



30周年記念座談会

今度こそ日本に行ったらどうですかって思ったら、両親に相談して、両親も「もちろんいいですよ、もっと自分の世界を広げて、自分の国のことではなくて他の国のことももっと知ってください」というふうに言われて、私もやっぱり日本に行きましょという気持ちで日本に来ました。それは動機というかきっかけです。

田尻：やっぱり留学生の方、皆さん、そんな感じが多いんでしょうかね？

鄭 君達：それぞれ動機が違ったと思いますね。正直言うと、私の場合、大学の生活が終わってから、もう修士として今留学しているんですけど、正直、人より、例えば私は本当に修士、学校、証明書みたいなことが欲しいというきっかけで来た人もいるし、あとは本当に日本が好きだから日本で生活したいという人もいるし、私の場合はただ日本が好き、でここに来ました。もう一つは、私は22年間ずっと中国北京で生きていて、他の国に行ったことがないんです。だから、自分自身も本当に自分の世界を広げたいという気持ちでここに来ました。

田尻：日本でどうですか？

鄭 君達：もちろん思った通り素晴らしい国です。さっきも言いましたけど、日本はいつも職人の国というふうに言われているんですけど、どうして職人がそんなにたくさん出ているというが、ずっと考えて、やっぱり先生とやって、もちろん先生とやってもひとつなんですけど、私もアルバイトをして、アルバイト先もとてもたくさん、年齢の高い人がまた働いているということも毎日一緒に働いていると感じているのが、本当に職人ですから、だから年をとってもまた続いて自分を国をささげても、他の人のためのささげてもいいし、自分自身をささげて仕事をやり続けているということが、本当に日本に来て一番感じたことだと思います。それが本当に毎日関心して、これから私も20代なので、毎日自分これから何をしようか、どんなような仕事をしようか毎日悩んでいます。具体的には実際できることと、やりたいことは中にギャップがあるんじゃないですか。だから毎日悩んでいて、何をやるというより、まず自分が好きなことをやります。そして、本当に続いて職人の気持ちをもって本当に一生それを、一生続けていることが一番大事ではないかと思いました。すいません、日本語がなんか。

今は私、宗教学を勉強しています。「私、宗教学勉強している」と言われたら、「えー」という反応がいつも出て、なぜ私は宗教学勉強したいというか、何年前の話なんですけど、ISSというテロリズムの組織があったんじゃないですか。その時その新聞を見て、今の世界は平和なんですけども、ある地域、私が知らない所で、ある人が本当に大変な生活を送っているなど初めて分かりました。中国は普通といえば、本当に平和な国なんですけど、だから私こういう新聞を見て、私一体何ができるのかと思ったら、やっぱり平和に関する宗教。宗教、平和、暴力に関することを勉強したいという気持ちを持って、結局そういう宗教に決めました。

新妻：でもね、若いからいいですよ。世界旅行をしてごらん。日本くらい水がいいことないから。例えば、ネパールの小学校行っても可哀想だからね。このくらいの部屋があれば、午前授業、午後なんだけども、水が悪いから、仲間は1か月で体に蕁麻疹が出てくるし、水が悪いから結局そこにいけないの。日本が一番水がいいですから、地元に水がないから日本からペットボトル持って行ったってひと月でなくなっちゃうでしょ。結局ボランティアをやってあげたくたって水が悪いから、その地域に順応できないわけ。僕はもうボロボロになりながら半年くらい頑張ったけど、それでもやっぱり地元に住むって大変です。水が悪いから。ヤクなんか3千メートルく

らい放牧しているんだから。ヤクのしょんべんなんか流れてくるしさ。日本だったら、小川のおいしい水でしょ。そんな無菌状態ないんだから。だから日本の国一番いいんです。体が、水が悪かったら1週間ボロボロ出てきますよ、蕁麻疹、大変ですよ。水。

谷口：あのね、宗教のこと勉強しているって言うけど、基本的には中国から来ているのがかなりあるのね、日本に。

鄭 君達：中国から

谷口：中国から日本に渡って、宗教ね。

大西：仏教は中国から日本に来たよ、というこういう話ですね。

谷口：でもしっかりとお話できるからね。なかなかこれだけ話できる人、いるようでいないんです。

大西：八百坂さん、追加のお話ありませんか？

八百坂：国際親善の集いにまず一番最初に入りました。なぜ入ったかという、あの当時30年前、外国の方とお話したり、声をかけられたり、すると引くんですよ。一歩引く。一歩出て「はい」じゃなくて、YESじゃなくて、なるべく声をかけられないようにしようとかね、逃げるようにしていたんですね。答えられないんですよ。中学高校で英語は習いましたが、しゃべれないんです。だから聞き取れない。そういうのがあります、ちょっと敬遠していたんです。なるべく遠ざかろうって。だから、やはり積極的に何か行動に移すためにも、国際親善の集い草の根の交流会という見出しを見まして、ぜひ私も入りたいわ。少しでも近づきたいわというふうな気持ちで入りました。今は30年経ちますと、相変わらず英語は、語学の方は達者じゃありませんけど、避けるとか、逃げるとか、逆にそういうことはなくて、逆に近づいていく。何か自分で、その後続かないんですよ。続かないんだけど、何か心で、心が通じ合うというのか、それでハートとハートが互いに感じ合えば、何か解決の糸口がつかめるというふうな自信が出来てきたんですね。ですから、今は割と積極的にどなたでも外国に行ってもボディランゲージ、日本の着物ご存知ですね。着物のリメイクなんですけど、これを必ず10枚から20枚持って行って、帯で作った布とか、バックなんですけどね、こういう物を身に付けたり持っていると、そこから「オージャパンキモノ」とかそんなところから入っていくというのかな、とすると、「ワンダフル」とか「ビューティフル」とか言って、だんだんと仲良くなって、声かけられます。この国際親善の集いの功績というのか、とにかくそういう垣根を超えることができたのではないかと。私にとっては最大の功績というのか、魅力というのか、体験でした。もう一つ、一番最初に先ほどもソ連に行きましたよね。旅行。その時福田さんという方がいらっちゃって、よく買い物をしていて遅れてくるんです。そうしますと、罰金。罰金を制定したんです。1分遅れるごとに100円。ですから10分も15分も遅れてきたら1,500円とか罰金を払わなきゃいけないでしょ。そうしたらみんなに、遅れてきたら普通は嫌な顔されますけど、みんなに拍手されるんです。今晚のお酒のお金ができたっていうんで。それでとっても、常に笑い声が旅行中ありまして、そんなのもエピソードでありますね。モスクワとか、そういう所移動するときに飛行場に行きますでしょ。それ全部夜なんです。夜中にみんなごそごそと起きて飛行場に向かうんです。今考えると、やっぱりソ連はまだ鉄のカーテンがあったりと



30周年記念座談会

うのか、夜移動するんだなとか思いました。それからノボシビルスクの看板、文化交流ありましたよね。その看板を見ますと、日本人でなくて中国の、何となく衣装というのか、顔立ち、雰囲気、そんな感じで、まだ日本人というのは知られていないんだなと思いましたね。ですから、いろんなことで外国を訪ねる、それから外国の方と親しくなるということは、日本を知る。先ほども言いましたように、日本ほど治安もよく、水はいいし、というようなことは外国に行くと初めて分かる。日本っていい国だったんだなということ実感しました。

大西：あと斉藤さん何か、少し追加ありませんか。

斉藤：今、本当にインターネットとかでいろんな国の人と話すこともできたり、いろんな情報とかだったんですけど、私たちが始まった30年前の頃とかは、あまりそういう携帯電話とかもまだ普及していなかったり、海外から来た方も、やはりまだそう簡単にメールでお友達で連絡取ったりとかっていうわけじゃなかったですから、すぐく野外親睦会というので、さっきも言った滝野とか、紅桜公園とか、あと宮の森ガーデンとかに行き、よくハイキングとかお昼いろいろとやっぱり焼き肉を食べたりとかっていう、食事をいろいろとやっぱり楽しんだことが思い出されるし、谷口エツさんはいつもその時に漬物を、今はもうできないかもしれないですけど、必ずいろんな所に、レストランであっても、この第一ホテルも、この当時は、最初の頃は大通りにあったんですけども、レストランで食事なのに必ず家から漬物を持ってくと、ホテルの方はちょっとやっぱりそこで何かあったら困るから嫌な顔を普通は、そのレストランで家から持ってきたものを出すとするんだけど、谷口さんの奥さんであればもう仕方ないというような感じで、もういいとも悪いとも、そしてタッパから全部そのホテルのさらに全部移して、逆にもう最後はホテルから出してもらうというような、そういうふうにと考えると、第一ホテルさんもいろいろ最初の総会の頃から、大通りの時から、ここに移る時も、ずっと一緒に第一ホテルさんも30年ご利用をさせていただいていたのかなというような、そんなことも。第一ホテルさんのこととか、そういう野外親睦会のこととか、漬物のこととか、またその時にはインターネットもなかったもので、もっと少し不便だったり情報もなかったもので、そういう交流会の時にはいろんな情報とかで私たちも楽しく過ごしていました。



谷口：あのね、当時途中で、関係あることなもんですからね、私が腰悪くしているから重い持てないから、漬物なんか冗談でないわけ。そうしたらね、今日これあるっていうのね、偶然なんだけど、私いつも漬物持ってくるでしょ。その代わりに粟井さんが宅急便で間に合った。それから今ね、ホテルに頼んで。だから人の気持ちって、さっき宅急便で着いたの。だからそれを皆さんに、上手なんだ漬物。キムチは合うし。下手な物いただくより、漬物ってありがたいしょ。今出てきますから。私の代わりに漬けてくれたの。

新妻：ポートランドで漬物と持って行ったしょ。こんな小さいテープレコーダーでさ、北海盆踊り録音してたしょ。あれ盛り上がりましたね。最後ね。こんなスピーカーで。500人くらい踊ったの。

ポートランドで。

谷口：辻先生の所には、毎年生きている間、私がニシン漬けとか、それを運んだ。自宅に、車で。先生には絶対に。先生には裸で持っていったらだめでハイヤーのチケットつけて、これに乗っていきなさいよ、においするから、漬物ね。ほんとね、辻先生だったら親友みたいだった。いろんな意味で。

新妻：もう、新妻 発明工夫を引き継いで、辻へ継いだ、そして坂東先生。全部発明工夫。それは国際交流

大西：時間なので、簡単にまとめというか。お話ししたいこともう少しあれば

谷口：何か皆さん、これは一言ちょっと聞いてもらいたい、言っておきたいなということあれば、今ちょっと時間大丈夫ですけど、いかがでしょうか。言い忘れたとか。何かないですか。ないですか、特に

新妻：坂東先生に代わって、少しどうですか。

谷口：坂東先生も本当に国際親善に命がけでした。一生懸命一生懸命、本当に股広げてこうやって歩いてくるの。もう忘れられない。そして今入院してても、私も何回か行きましたね。それだけ先生は分からないと思うけど奥さんは「私ならわかるんだ」と言うの。自分のことをね、奥さんね。それで元気でいられるの。お互いに元気でいられるのかなと思って。また国際親善 30 年の間に、坂東先生は目に見えない力どれほどいただいたものか。あの先生に。本当に踊りから始まって、人の輪をつくるのがお上手な先生だったから、私やっぱり坂東先生もね。

新妻：三浦雄一郎が 1 年後輩でしょ。三浦は僕に聞くんだった。「新妻先輩はアマに徹したプロだって。」いいこと言うね。三浦はね、10 人ね、給料払ってる自分のスタッフに、だからね大変ですよ。10 人に月給を払う。僕は年金で悠々としていますからね。アマに徹したプロだと。

谷口：まずまずなんだかんだと皆さんのお世話で 30 年なんだかんだ言いながら立派にキープして、そして今 30 周年をしよう、やっぱり締めくくりですから記念誌はちゃんとした物を残したいなと思いますね。そしてこれをみんな、他人なんだけど、私みんな遠い親戚みたいな感じするの。役員のひとがたというのは。どうも他人だと思えないんですよ。みんなそれぞれ一生懸命なのが伝わってきますからね。留学生も同じね、関係なくないんだと思うんですよ。なんかでもつながってる。そういうことだと思うんですよ。

新妻：昔ね、谷口良一さん、ご主人が言っていたことは、昔の白黒映画で、「われらみな人間家族」という映画があったの。それを谷口良一さんは、それが国際親善の原点なの。われらみな人間家族、ファミリー。その精神ですよ。

大西：時間になりましたので、この座談会としては終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

札幌国際親善の集い年譜《30年史》

■1989年（平成元年）

- 6月21日 札幌国際親善の集い設立総会〈札幌第一ホテル〉
- 8月5日 札幌市1万人群舞サマーフェスティバル参加(4ヵ国25名参加)
- 8月20日 札幌市夏祭り仮装盆踊り準優勝(9ヵ国25名参加)
- 9月16日 札幌を聴く会(札幌手稲コンサート実行委員会)
- 11月5日 第1回国際チャリティーフェスティバル〈札幌パークホテル〉

■1990年（平成2年）

- 1月27日 新年会〈札幌第一ホテル〉
- 6月10日 第1回国際親善ハイキング(20カ国348名参加)〈国営滝野すずらん丘陵公園〉
- 7月7日 平成2年度総会〈札幌第一ホテル〉
- 8月4日 札幌市1万人群舞サマーフェスティバル参加(20名参加)
- 8月20日 札幌市夏祭り仮装盆踊り優勝(13ヵ国35名参加)
- 9月10日～18日 札幌姉妹都市提携記念
国際親善の集い「ノボシビルスク(ロシア連邦)友好交流訪問団」訪日
- 11月5日 第2回国際チャリティーフェスティバル(25カ国620名参加)〈札幌パークホテル〉

■1991年（平成3年）

- 1月 新年会〈フジヤサントスホテル〉
- 2月6日 「ノボシビルスク経済親善使節団」来札幌 経済セミナー開催
- 3月24日 洞爺湖「健康館」1泊研修 各国総領事夫人・女性会員(4ヵ国24名参加)〈洞爺健康館〉
- 6月23日 第2回国際親善ハイキング(20カ国)〈国営滝野すずらん丘陵公園〉
- 7月21日 平成3年度総会
- 8月3日 札幌市1万人群舞サマーフェスティバル参加
- 8月20日 札幌市夏祭り仮装盆踊り特別賞
- 11月5日 第3回国際チャリティーフェスティバル〈札幌パークホテル〉

■1992年（平成4年）

- 1月18日 新年会〈フジヤサントスホテル〉
- 5月 日中国交正常化20周年記念「国際親善の集い文化交流団」訪中
- 6月21日 第3回国際親善ハイキング〈国営滝野すずらん丘陵公園〉
- 7月11日 平成4年度総会〈フジヤサントスホテル〉
- 7月22日 21世紀友情計画(国際協力事業団)カルチャースクール出演
- 8月8日 札幌市1万人群舞サマーフェスティバル参加
- 8月30日 朝里日帰り親睦会(15ヵ国58名参加)〈マリンヒルホテル〉
- 11月5日 第4回国際チャリティーフェスティバル(603名参加)〈札幌パークホテル〉
- 11月10日 サラエボの子どもを救おう オリンピックエイド募金

祝 創立30周年記念

 <p>医療法人札幌会 岩澤クリニック 院長 岩澤 晶彦</p> <p>〒060-0061 札幌市中央区南1西16レーベンビル2F TEL 613-6000 FAX 613-3000 http://www.iwasawa-clinic.jp/</p>	 <p>札幌第一ホテル SAPPORO DAIICHI HOTEL</p> <p>札幌市中央区南7条西1丁目12-7 《代表》011(530)1101 《FAX》011(530)1099</p> <p style="text-align: center;"> <input type="text" value="札幌第一ホテル"/> <input type="button" value="検索"/> </p> <p><small>【ホームページ】 http://www.sapporo-daiichihotel.co.jp</small></p>	<p>創業 大正12年の老舗 き く いち</p> <p style="font-size: 2em; font-weight: bold;">老久一本店</p> <p>御料理・仕出し</p> <p>本 店 ☎0120-014191 丸井今井札幌店 ☎011-205-2180</p>
---	--	--

札幌国際親善の集い年譜《30年史》

■1993年（平成5年）

- 2月6日 新年会〈フジヤサントホテル〉
- 3月 中国総領事館「中国料理の夕べ」（43名参加）
- 4月17日 平成5年度総会〈札幌国際プラザ〉
- 6月 ロシア連邦ヤクーツク市文化交流訪問団訪口
- 8月17日 札幌市1万人群舞サマーフェスティバル参加 優勝し記念品授与される
- 8月28日 国際納涼大会〈氷雪の門〉
- 9月12日 '93ノースチャリティーフェスティバル〈テルメインターナショナルホテル〉
- 11月5日 創立5周年記念国際チャリティーフェスティバル〈札幌パークホテル〉

■1994年（平成6年）

- 4月16日 平成6年度総会
- 6月12日 第4回国際親善ハイキング（142名参加）
- 8月1～9日 札幌市・ポートランド市姉妹提携35周年記念夏祭り（11名参加）
- 8月6日 '94大群舞北海盆踊り1万人大会参加
- 11月17日 創立5周年記念フェスティバル

■1995年（平成7年）

- 4月9日 平成7年度総会（42名参加）
- 6月25日 第5回国際親善ハイキング（139名参加、外国人50名）
- 7月8日 札幌・瀋陽姉妹締結15周年記念行事参加（現地瀋陽市水害の為中止）
- 10月6日 国際交流座談会（27名参加、外国人留学生12名）
- 11月23日 ふれ愛ワールドフェスタ（536名参加、外国人103名）

■1996年（平成8年）

- 2月4日 新年会（117名参加、外国人37名）
- 通年事業 「カルチャー教室」
- 4月14日 平成8年度総会（45名参加）
- 5月16日 国際座談会（18名参加、留学生10名、当会理事8名）
- 5月24日 第1回国際親善仮装大会（233名参加、外国人30名）〈ロシア領事館〉
- 6月9日 第6回国際親善ハイキング（178名参加、外国人67名）
- 7月26日～8月5日 キルギスタン友好訪問（11名参加）
- 11月6日 第8回チャリティー国際'96ふれ愛フェスティバル
（498名参加、外国人102名）

■1997年（平成9年）

- 2月8日 第1回ニューイヤー・インターナショナル・フォーラム（140名参加、外国人15名）

祝 創立30周年記念

<p>おうちで簡単3分エステ</p> <p style="font-size: 24px; font-weight: bold;">saqina</p> <p>セルフホームエステ 37年</p> <p>全国の店舗でご体験いただけます。 ホームページ「お問い合わせ一覧」より 「お試し体験お問い合わせ」から</p> <p>http://saqina.jp</p> <p>株式会社 フヨウサキナ</p>	<p style="font-size: 24px; font-weight: bold;">和菓子処</p> <p style="font-size: 36px; font-weight: bold;">菓とよねや</p> <p>札幌市中央区南3条西24丁目2番6号</p> <p>TEL.011-611-7739 FAX.011-643-1620</p>	<p style="text-align: center;">昭和13年創業</p> <p style="text-align: center; font-size: 24px; font-weight: bold;">安心と信頼の葬儀を…。</p> <p>ご遺体搬送（地方送り）致します。 24時間体制 （北海道運輸局長許可 北8 280の2号） 病院・自宅・式場</p> <p>通商産業大臣認可60第1784号 全日本葬祭協同組合連合会加盟</p> <p style="text-align: center; font-size: 24px; font-weight: bold;">(有)福塚葬儀社</p> <p>TEL. 511-1939 FAX (011) 511-0857 (011) 札幌市中央区南6条西9丁目</p>
--	---	---

札幌国際親善の集い年譜《30年史》

通年事業	「カルチャー教室」
4月13日	平成9年度総会（42名参加）
5月2日	日中友好25周年記念の夕べ（175名参加、外国人25名）
6月18日～25日	ミュンヘン友好親善訪問（10名参加）
6月25日	第7回国際親善ハイキング（120名参加、外国人20名）
10月28日	第9回チャリティー国際'97ふれ愛フェスティバル（592名参加、外国人155名）

■1998年（平成10年）

2月15日	第1回ニューイヤー外国人の日本語スピーチコンテスト（177名参加、外国人27名）
通年事業	「カルチャー教室」
4月12日	平成10年度総会
6月21日	野外親睦会
8月3～7日	サハリン文化交流
10月30日	札幌国際親善の集い10周年記念ふれ愛フェスティバル
11月	チャリティーぬくもり舞人

■1999年（平成11年）

2月	ニューイヤー・フェスティバル
4月	平成11年度総会
6月27日	第9回国際野外親睦会
8月24～9月4日	ブラジル・パラグアイ北海道交流センター落成記念式典出席
10月25日	第11回札幌国際親善の集い'99ふれ愛チャリティーフェスティバル
11月	第3回チャリティーぬくもり舞人

■2000年（平成12年）

2月5日	2000年ニューイヤーフォーラム講演会
4月	平成12年度総会
5月14日	第4回2000年チャリティーぬくもり舞人
7月23日	第10回国際野外親睦会
10月23日	第12回札幌国際親善の集い'00ふれ愛チャリティーフェスティバル

■2001年（平成13年）

1月21日	2001年ニューイヤーフォーラム講演会
4月	平成13年度総会
5月20日	第5回2001年チャリティーぬくもり舞人
7月11日	第11回国際野外親睦会
10月30日	第13回札幌国際親善の集い'01ふれ愛チャリティーフェスティバル

祝 創立30周年記念

にしん御殿
小樽貴賓館
—— 旧青山別邸 ——

（国登録有形文化財）

〒047-0047 小樽市祝津3丁目63
電話 (0134)24-0024

日本舞踊 藤扇流 札幌本部
藤扇千女
江戸芸かっぽれ道場
櫻川后力

札幌市豊平区中の島1条1丁目3-10-505
自宅 011-815-5888 野上 光子

ビル・マンション各配管設備の
大規模改修工事
他各給排水設備の保全と各劣化診断調査



櫻井工業株式会社
札幌市白石区平和通11丁目北6番39号
TEL (011) 864-5611 FAX (011) 864-1644

札幌国際親善の集い年譜《30年史》

■2002年（平成14年）

- 1月13日 2002年ニューイヤーフォーラム講演会
- 4月21日 平成14年度総会
- 6月2日 第6回2002年チャリティーぬくもり舞人
- 6月4～11日 日本キルギス共和国文化交流でキルギス訪問
- 7月21日 第12回国際野外親睦会
- 9月7～13日 日中国交正常化30周年記念 日中女性大会（北京）北海道代表として参加
花柳メ榮 祝舞「鶴亀」を舞う
- 8月22日 川口外務大臣と語る夕べ・ミーティング参加
- 10月10日 第14回札幌国際親善の集い'02ふれ愛チャリティーフェスティバル

■2003年（平成15年）

- 1月25日 創立15周年記念ニューイヤー講演会
- 4月 平成15年度総会
- 5月18日 第7回2003年チャリティー翔！ぬくもりワールド（15周年に改名）
- 7月 第13回国際野外親睦会
- 10月29日 第15回札幌国際親善の集い'03ふれ愛チャリティーフェスティバル

■2004年（平成16年）

- 3月14日 留学生座談会（札幌第一ホテルにて、当会理事代表と5ヵ国 中国・インドネシア・キルギス・チュニジア・モロッコ留学生）
- 4月25日 平成16年度総会
- 6月6日 第8回2004年チャリティー翔！ぬくもりワールド
- 7月12日 浅井学園大学と韓国培花女子大学との姉妹提携10周年記念 日舞カルチャー教室特別講義
- 7月18日 第14回国際野外親睦会（札幌円山動物園・宮の森ガーデン）
16ヵ国の外国人35名 総計140名の参加
- 10月27日 第16回札幌国際親善の集い'04チャリティーふれ愛フェスティバル
（外国人100名 総計600名参加）

■2005年（平成17年）

- 3月20日 「バングラディッシュ札幌支部10周年記念祝賀会」クラーク会館
- 4月24日 平成17年度総会
- 4月29日 北海道インターナショナルスクール小・中学生150名に日本舞踊を体験
- 5月29日 第9回2005年チャリティー翔！ぬくもりワールド（かでの2・7）
- 7月10日 第15回国際野外親睦会（札幌円山動物園・宮の森ガーデン）
120名の参加
- 7月11日 北翔大学にて韓国培花女子大学生50名に花柳メ榮日舞特別講演

祝 創立30周年記念

株式会社 藤井ビル

札幌市中央区大通西11丁目4番地
TEL:011-221-3939(代表)



花を贈り、こころを贈る。

有限会社 **荒木生花店**

札幌市中央区南15条西18丁目2-18
TEL 011-521-1177
FAX 011-521-1179

藤扇流 札幌支部 舞の会
日本舞踊・新舞踊教室

藤扇 裕久

札幌市南区真駒内曙町1丁目1-16-105
TEL. (011) 581-1855

札幌国際親善の集い年譜《30年史》

- 10月27日 第17回札幌国際親善の集い'05チャリティーふれ愛フェスティバル 600名の参加
11月2～9日 「札幌－瀋陽姉妹都市提携 25周年記念行事」札幌国際親善の集いから27名の参加

■2006年（平成18年）

- 1月22日 第2回札幌国際親善の集い新春国際交流座談会
15ヵ国50名参加ム（札幌第一ホテル）
2月26日 瀋陽ホームビジットでお世話になった北大留学生郎旭輝さんの両親来札し歓迎会
（札幌第一ホテル）
2月26日 札幌姉妹都市クラブ（瀋陽・ミュンヘン・ポートランド・ノボシビルスク）の要
請で谷口エツ副会長瀋陽市訪問につき発表 札幌市民70名参加
4月30日 平成18年度総会
6月4日 第10回2006チャリティー翔！ぬくもりワールド
600名参加（かでの2・7）
7月2日 第16回国際野外親睦会（札幌円山動物園・宮の森ガーデン）
外国人68名 総計85名参加
7月11日 「日韓文化交流事業」浅井学園大学短期大学と韓国培花女子大学との姉妹提携継
続事業に協力参加
7月18日 同上閉校式・交流パーティに4名参加
10月23日 第18回札幌国際親善の集い'06チャリティーふれ愛フェスティバル
600名参加（かでの2・7）

■2007年（平成19年）

- 4月30日 平成19年度総会 札幌第一ホテル 43名参加
6月24日 第11回2007チャリティー翔！ぬくもりワールド（かでの2・7）
7月2日 北翔大学の特別講師として、北方圏学術センターにて日本舞踊の基本・型・小道
具を利用した実技体験を通じ日本文化に触れた
7月12日 「第13回日韓文化交流事業」江別北翔大学講堂で韓国培花女子大学40名に日舞指導
10月23日 第19回札幌国際親善の集い'07チャリティーふれ愛フェスティバル
500名参加（札幌パークホテル）

■2008年（平成20年）

- 2月4日 国際親善の集い新年会（プリンスホテルパミール館）
4月27日 平成20年度総会 札幌第一ホテル 34名
5月25日 第12回2008チャリティー翔！ぬくもりワールド（かでの2・7）
10月6日 第20回札幌国際親善の集い'08チャリティーふれ愛フェスティバル 600名参加
10月24日 札幌国際親善の集い20周年記念 道新荘ぶんぶんの湯一泊交流会 20名参加
11月13日 ふれ愛・フェステ反省会&忘年会 15名参加（札幌パークホテル）

祝 創立30周年記念

大西啓二公認会計士事務所

〒060-0033 札幌市中央区北3条東2丁目2番地 三博ビル 2F
電話／011-213-0646 FAX／011-213-0648



札幌中心部最大級のお土産店

たぬきや

札幌市中央区狸小路4丁目
TEL 011-221-0567
<http://www.tanukiya.jp>

札幌国際親善の集い年譜《30年史》

■2009年（平成21年）

- 2月15日 新年茶話会&国際座談会（札幌第一ホテル）
茶話会（70名）国際座談会（12カ国）
○自国の家庭関係について
○札幌に住んで感じたこと
- 4月26日 平成21年度総会 札幌第一ホテル 38名
- 5月31日 第13回チャリティー翔！ぬくもりワールド（かでの2・7）
- 7月26日 国際野外親睦会 澄川紅桜公園 46名（内、外国人30名）
- 8月10～17日 インドネシア訪問15名参加、2か所会場で文化交流公演、マスコミに取り上げられる
- 10月5日 第21回札幌国際親善の集い'10ふれ愛フェスティバル 470名参加（札幌パークホテル）

■2010年（平成22年）

- 4月25日 平成22年度総会 かでの2・7 35名
- 5月15日 第14回チャリティー翔！ぬくもりワールド（かでの2・7）
- 10月4日 第22回札幌国際親善の集い'10ふれ愛フェスティバル
470名参加（札幌パークホテル）

■2011年（平成23年）

- 2月13日 新春国際スピーチ大会と新年の集い 80名（留学生13カ国）
札幌第一ホテル
- 4月29日 平成23年度総会 札幌第一ホテル 38名
- 5月22日 第15回チャリティー翔！ぬくもりワールド（かでの2・7）
- 10月4日 第23回札幌国際親善の集い'11ふれ愛フェスティバル 460名参加（札幌パークホテル）

■2012年（平成24年）

- 4月29日 平成24年度総会 札幌第一ホテル 36名
- 5月20日 インドネシア共和国ジョグジャカルタ市&札幌市国際文化交流（かでの2・7）520名
夜サッポロビール園にて打ち上げ 65名
- 8月29日 インドネシア文化交流でお世話になった古平訪問、古平国際交流の会と親睦を深める
- 10月4日 第24回札幌国際親善の集い'12ふれ愛フェスティバル
441名参加（札幌パークホテル）

■2013年（平成25年）

- 1月10日 花柳メ榮 札幌文化団体協議会文化功労賞受賞
- 4月29日 平成25年度総会 札幌第一ホテル 46名
- 5月19日 第17回チャリティー翔！ぬくもりワールド（かでの2・7）
- 9月5日 [道新より]「第37回道新ボランティア奨励賞」全道より10団体選考される〈中標津会館にて〉

祝 創立30周年記念

(有) 谷口商事

代表取締役 谷口 エツ
 (札幌国際親善の集い 会長
 日舞カルチャー教室 金花会 花柳メ榮)

〒064-0953
 札幌市中央区宮の森3条13丁目4-35
 TEL 011-644-1735
 FAX 011-611-6698

小児歯科・矯正歯科・インプラント

医療法人 晃和会 谷口歯科診療所

札幌市中央区北2西4
 札幌三井JPビルディング6F 理事長
 電話 011-271-2610 谷口 昭博
 FAX 011-221-0267



国内・海外旅行のエキスパート
 ハワイは特におまかせください。
 運輸大臣登録旅行業代理店業 2319号

産経海外旅行

代表取締役 斉藤 昌一

本社 〒060-0001 札幌市中央区北1条西7丁目
 タキモビル4F
 ☎ 011(271)5388 FAX 011(271)5621
 ▶ハワイ・ホノルル事務所 KATO GOLF TOURS
 ☎ 808-947-3010
 FAX 808-597-8224

札幌国際親善の集い年譜《30年史》

- 10月3日 第25回札幌国際親善の集い'13ふれ愛フェスティバル 440名参加 (札幌パークホテル)
12月26日 [北海道知事より]「平成25年度北海道社会貢献賞」「国際協力功労者」〈知事室にて〉
10月5～9日 札幌・ソウル・大田(テジョン) 国際文化交流 4泊5日 18名参加

■2014年(平成26年)

- 3月31日 創立25周年記念誌 発行 ■2014年(平成26年)
2月5日～8日 韓国外国語大学崔在喆学長ご家族を雪まつりにご招待
4月29日 平成26年度総会 札幌第一ホテル 42名出席
5月24日 第18回チャリティー翔!ぬくもりワールド(かれる2・7)
10月6日 第26回チャリティーふれ愛・フェスティバル(札幌パークホテル)415名

■2015年(平成27年)

- 2月15日 新春国際スピーチ大会&新年の集い(札幌第一ホテル)43名参加
4月29日 平成27年度総会 札幌第一ホテル 48名出席
5月24日 第19回チャリティーぬくもりワールド(かでの2・7)
6月21日 国際親善親睦会 札幌北ホテルお食事会(札幌北ホテル)留学生16名
10月6日 第27回チャリティーふれ愛・フェスティバル(札幌パークホテル)417名

■2016年(平成28年)

- 4月29日 平成28年度総会 札幌第一ホテル 38名出席
5月8日 第20回チャリティー翔!ぬくもりワールド(かでの2・7)
6月25日 2016札幌国際親善親睦会(小樽貴賓館)25名参加
10月3日 第28回チャリティーふれ愛・フェスティバル(札幌パークホテル)401名

■2017年(平成29年)

- 4月30日 平成29年度総会 札幌第一ホテル 31名出席
5月14日 第21回チャリティー翔!ぬくもりワールド(かでの2・7)
10月4日 第29回チャリティーふれ愛・フェスティバル(札幌パークホテル)361名

■2018年(平成30年)

- 4月29日 平成30年度総会 札幌第一ホテル 37名出席
5月13日 第22回チャリティー翔!ぬくもりワールド(かでの2・7)
10月9日 第30回チャリティーふれ愛・フェスティバル(札幌パークホテル)420名

■2019年(平成31年)

- 4月14日 平成31年度総会 札幌第一ホテル

祝 創立30周年記念



アカツキ交通株式会社
<http://www.akatuki-taxi.co.jp>

24時間無線センター

011-771-6000
011-771-2631

有限会社 タジリ企画

〒060-0008
札幌市中央区北8条西15丁目28-178

電話(011)633-1801
FAX(011)633-1772
E-mail: st@tajiri.biz

思い出の30年



1988年(昭和63年)7月
ロシア領事館にて総領事御夫妻を囲んで



1988年(昭和63年)7月31日
第1回ロシア総領事館にて開催される！
エリザベター総領事夫人・職員の方々と



1989年(平成元年)8月20日
札幌市盆踊り大会に出場 出場者151組
「札幌国際親善の集い」チームNo1決定した



1988年(昭和63年)7月31日
国際親善の集いソ連事館にて平成元年にター
総領事夫人エリザベターさんと



1990年(平成2年)6月10日
ハイキング…踊りと会食で楽しむ



1990年(平成2年)8月20日
札幌夏祭り盆踊り大会 大通公園
25ヶ国151組出演した中で、国際親善の集いNo1決定！



1990年(平成2年)8月20日
札幌夏祭り出演No1に輝く



1990年(平成2年)8月20日
札幌夏祭り出演打上げ
留学生と故 谷口良一会長、故 荒木和子理事

思い出の30年



1990年(平成2年)
夏の札幌市民盆踊フェスティバル優勝報告か？
札幌夏祭り出演No1に輝く

1991年(平成3年)
新年会フィナーレで
全員で輪踊り



1991年(平成3年)
総会后アトラクション



1992年(平成4年)11月5日
駐在札幌ロシア領事館と共に「さくら・さくら」踊る



1992年(平成4年)4月30日
「北京迎賓館ステージ
にて」茶道発表
初代谷口良一会長と



1992年(平成4年)11月5日
韓国の踊り発表



1993年(平成5年)8月28日
国際親善納涼大会
氷雪の門





1993年(平成5年)8月28日
駐在札幌ロシア総領事館
出演「コーラス」



1993年(平成5年)8月28日
花柳ゞ榮



1994年(平成6年)
米国姉妹都市「ポートランド市サマーフェスティバル」
のステージに参加・発表する(花笠音頭)



1995年(平成7年)6月25日
滝野すずらん丘陵公園 バス4台で200名参加



1993年(平成5年)11月5日
金花会々主 花柳金栄氏を中心に祝舞
「花柳栄志生 花柳金栄 花柳ゞ榮」3名祝舞を舞う



1993年(平成5年)11月5日
市田東正の獅子舞



1994年(平成6年)
ポートランド市にて お茶会に出席する 谷口会長と理事



1996年(平成8年)2月4日
駐在札幌ロシア総領事と中国総領事と
ロシア領事館にて

思い出の30年

1996年(平成8年)2月4日
新年会にて
花柳 榮 (谷口エツ)
踊る



1996年(平成8年)
2月4日
故 宮澤正氏
日本舞踊発表



1996年(平成8年)4月14日
駐在札中国総領事スピーチ依頼



1996年(平成8年)6月9日
滝野公園にてジングスカンパティ



1997年(平成9年)10月28日
駐在札ロシア総領事より乾杯ー!



1997年(平成9年)
滝野公園ハイキング 450名の大パーティ



1997年(平成9年)
留学生の踊り (インドネシア)



1997年(平成9年)
滝野公園ハイキング



1997年(平成9年)
滝野公園ハイキング
滝野公園にてハイキング途中



1997年(平成9年)
ドイツのミュンヘンにて「集い」のメンバーが
「花笠音頭」を踊る



1997年(平成9年)
ミュンヘン市民と北海道盆踊り



1997年(平成9年)2月8日
ニューイヤー国際フォーラム



1998年(平成9年)2月15日
ニューイヤースピーチコンテスト弁論大会風景
京王プラザホテルにて



1998年(平成9年)4月12日
駐在札幌ロシア総領事に谷口エツ子会長から花束



1999年(平成10年)4月17日
駐在札幌米国総領事記念講演(札幌国際親善総会に)

思い出の30年



1999年(平成10年)10月25日
札幌国際親善の集い第11回フェスティバル



1999年(平成10年)
ブラジル北海道協会80周年交流センター設立
こけら落としに「藤娘」踊る
谷口エツ事花柳ギ榮



1999年(平成10年)
札幌市・ブラジル80周年の記念日に招待される谷口会長夫妻・会員と



2000年(平成11年)2月5日
ニューイヤーフォーラム



2000年(平成12年)10月23日
駐在札幌ロシア領事館職員出演

2000年(平成11年)2月5日
ニューイヤーフォーラム
ロシア領事館子供たち出演





2001年(平成13年)10月30日
ふれ愛チャリティーフェスティバル
ステージには「韓国チーム」と北海盆踊り大会
代表朴愛利さん



2004年(平成16年)10月27日
第16回ふれ愛フェスティバルの右から西
村・新家・坂東・牧野 各理事



2002年(平成14年)
正常化30周年に中国北京のステージで
祝舞「鶴亀」を舞う

2002年(平成14年)
日中国交30周年に招待される
中国婦人会土井たか子氏と三浦理事



2005年(平成17年)11月3日
日中交流のハイライト! 瀋陽市長・札幌市長と



2005年(平成17年)
国際親善15周年記念訪問団27名



2005年(平成17年)11月4日
瀋陽紋宮 札幌国際親善の集い参加者27名

思い出の30年



2005年(平成17年)11月4日
北大留学生実家 郎宅
※15日間かけて料理の準備他接待を受けるホーム
ビジット



2006年(平成18年)
姉妹都市提携25周年記念
北京にて前・元札幌総領事と



2009年(平成21年)
インドネシアにて
茶道栗井幸子先生の茶道発表の打合せ



2009年(平成21年)
インドネシア



2009年(平成21年)
インドネシアにて市内見学手作りのケーキを戴く



2009年(平成21年)
打合せ(インドネシア滞在中)



2009年(平成21年)
インドネシア保育園にて



2009年(平成21年)
北大在学中アリさん一家と
(インドネシア留学生)



2009年(平成21年)
アリさん孫と大学学長夫人



2009年(平成21年)
アリさん孫と
ガジャマダ大学学長



2009年(平成21年)
アリさん夫妻と



2012年(平成24年)
インドネシア・カジャマダ大学教授婦人15名
「かでの27」でインドネシアの踊りを発表、道と市を表敬訪問



2012年(平成24年)
北翔大学の非常勤講師として韓国培花女子大学生に日本舞踊の講習会
25年間指導している



2013年(平成25年)10月6日
韓国大田姉妹提携ステージ
(韓国チーム)



2013年(平成25年)10月6日
姉妹提携大田訪問谷口会長挨拶
(オープニング)

思い出の30年



2013年(平成25年)10月3日
ふれ愛フェスティバル 中国琴演奏



2013年(平成25年)10月3日
ふれ愛フェスティバル 留学生による踊り好評



2013年(平成25年)5月19日
第17回チャリティー翔!ぬくもりワールド
韓国北大留学生



2013年(平成25年)
韓国ソウルに手料理のもてなしを受ける
キルさんには最高のおもてなしに感謝
有名な歌手も参加して唄を披露



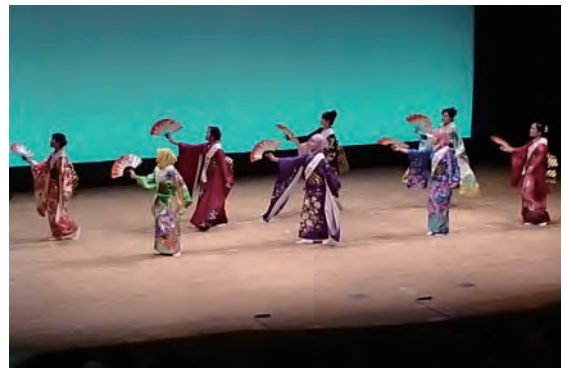
2013年(平成25年)
5月19日
ちだとしこバレエ教室



2014年(平成26年)10月6日
第26回ふれ愛フェスティバル
札幌国際親善の集い役員出演者ほか 於.札幌パークホテル



2016年(平成28年)10月3日
おかめひょっこ踊り



2016年(平成28年)5月8日 恒例カルチャー教室留学生の日舞発表
留学生踊りサークル



2016年(平成28年)5月8日
第29回チャリティー翔!ぬくもりワールド



2016年(平成28年)6月25日
留学生と食事会



2016年(平成28年)6月25日
留学生と食事会



2016年(平成28年)6月25日
食事の後の盆踊り



2016年(平成28年)6月25日
インドネシア留学生



あでやか留学生らが舞披露

札幌で市民と踊り通じ交流

市民と外国人留学生が交流する「チャリティー翔!ぬくもりワールド」が8日、札幌市中央区のかでる2・7で開かれ、約600人が、外国人留学生らによる日本舞踊などを楽しんだ。

留学生に日本舞踊を教える市民団体「札幌国際親善の集い」(谷口エツ会長)が主催した。20回目の今年は、日本舞踊やフラダンス、タップダンスを学ぶ市民や留学生ら約120人が出演。北大に通うインドネシア人の留学生らは、あでやかな着物姿で「さくらさくら」の音楽に合わせて、華麗な舞を披露する出演者

〔第20回〕

2016. チャリティー翔!ぬくもりワールド

2016年(平成28年)5月 道新記事

- ・曲名「さくらさくら」「まりもの唄」
 - ・出演者 北大中学生他9名(インドネシア・ミャンマー・中国)
- 毎週日曜日の特訓で見事に揃い、本番は大成功で拍手と翔さんで感謝のステージであった。

な舞を披露した。ステージ発表に先立ち、

収益金の一部を北海道新聞野生生物基金と北大留学生

センターに寄付した。

(野呂有里)

札幌市民と外国人留学生らが交流する「ふれ愛・チャリティフェスティバル」が3日、札幌市中央区のホテルで開かれた。約400人が食事をしながら、踊りや歌のステージを楽しんだ。

市民団体「札幌国際親善の集い」（谷口エツ子会長）が毎年開いており、26回目。北大や北海学園大に留学する学生を中心に、中国やインド、ロシアなど12カ国の76人が参加。市民有志が三味線やフラダンスなどを披露して、もてなした。

女性の留学生たちは、振り袖姿で日本舞踊に挑戦。北大大学院で感染症を研究

留学生 振り袖姿で日舞挑戦 札幌市民と交流「ふれ愛フェス」



振り袖姿で日本舞踊に挑戦する留学生たち

しているインドネシア人留学生アニン・ティータさん(27)は「手の動きを猛練習しておかげでうまく踊れました」と満足そうだった。
(石川泰七)

2016年(平成28年)10月
ふれ愛フェスティバル 道新記事



2016年(平成28年)10月3日
ふれ愛フェスティバル 於札幌パークホテルにて
フィナーレ北海盆踊り会場全員で輪踊り



2017年(平成29年)4月24日
総会



2017年(平成29年)4月24日
総会



思い出の30年



2017年(平成29年)5月14日
第21回ぬくもりワールド



2017年(平成29年)5月14日
第21回ぬくもりワールド



2017年(平成29年)5月14日
親善の集い 祝賀会に韓国朴愛梨さん
日本吉光妙子・花柳メ栄3名「荒城の月」踊る



2017年(平成29年)
おひな様の前で…
中国・ベトナム・インドネシア…
踊りのレッスン(毎週日曜日) お楽しみ会 谷口エツ



2017年(平成29年)10月4日
第29回ふれ愛フェスティバル

5 マイたうん 札幌・道央圏



札幌市民と外国人留学生が文化交流する「チャリティー舞いぬくもりワールド」が、札幌市中央区のなかで27で開かれた。主催する民間団体「札幌国際親善の集い」のメンバー高橋佳洋は、22回目の今年を最後に離れる。日本舞踊や歌謡曲のステージが、約400人の来場者を楽しませた。

留学生と歌や踊りで交流
最後の「ぬくもりワールド」札幌

市の大学で学ぶ留学生「伝えよう」と、1997年から日本の伝統文化の魅力を、毎年開かれている。市民が日本の舞踊や歌謡曲を披露したり、留学生が母国の楽器を演奏したりしている。取組は北北国際連携推進課などによって行われてきた。

今年のはじめ、白河工科大学が「舞いぬくもりワールド」の開催を決定した。2017年10月、札幌から来ている北大留学生4人、白河工科大学の留学生1人、白河工科大学の学生1人が、白河工科大学の舞踊を披露し、観客も拍手で盛り上げた。

2018年5月15日 道新記事
北大留学生インドネシア
ベトナム・中国他7名出演。
大拍手のステージでした。



2018年4月29日 総会、韓国総領事のお話を聞く



2018年10月9日
第30回ふれ愛フェスティバル

あ と が き

ここに、札幌国際親善の集いの創立30周年記念誌を発行することができましたことは、携わっていただいた皆様の努力のおかげと心より感謝申し上げます。今回の記念誌の特徴は、座談会を開催したことであり、参加した皆様のお話をほとんど編集せずにそのまま載せたことでした。文章表現が上手といえなくとも気持ちが伝わってくると思います。又札幌国際親善の集いの30年をコンパクトにまとめたことと、カラー写真をふんだんに使って目でみてわかる構成になっています。

札幌国際親善の集いが、この30周年をもって閉じるのは大変さびしい限りですが、多くの皆様に感謝を申し上げ「あ と が き」といたします。ありがとうございました。

国際親善の集い理事長 大西 勲

「札幌国際親善の集い」創立25周年記念誌

発行日 平成31年 3月31日

発 行 「札幌国際親善の集い」事務局

札幌市中央区宮の森 3条13丁目 4 - 35谷口方

電話 (011) 644-1735

SAPPORO



Meeting of International Friendship

札幌国際親善の集い